いわて未来づくり機構
令和元年度総会・第1回ラウンドテーブル

日時：令和元年７月８日（月）
総　会　15:30～17:00
ラウンドテーブル　17:05～18:10
会場：サンセール盛岡

次　　　第

総会（第１部）15:30～16:00　（会場：１階ダイヤモンド）

１　開会
２　共同代表挨拶
３　議事
(1) 議案第１号　会則の改正について
(2) 議案第２号　平成30年度実績報告（案）について
(3) 議案第３号　令和元年度活動計画（案）について
４　閉会

総会（第２部）16:00～17:00

講演「脱優等生が創るニッポンの未来」
講師　慶應義塾大学 先端生命科学研究所 所長　冨田勝　氏

ラウンドテーブル　17:05～18:10

１　開会
２　ディスカッション　「国際研究拠点の形成とイノベーションの創出」
３　閉会

会員交流会　18:15～19:30　（会場：２階桐華）

出席者

【講師】

慶應義塾大学 先端生命科学研究所 所長　冨田 勝 氏

【ラウンドテーブルメンバー】

氏　名	所　属・職　名
谷村　邦久	岩手県商工会議所連合会長 みちのくコカ・コーラボトリング㈱代表取締役会長
高橋　真裕	(一社)岩手経済同友会代表幹事、㈱岩手銀行代表取締役会長
米谷　春夫	大船渡商工会議所副会頭、㈱マイヤ代表取締役会長
岩渕　　明	岩手大学長
鈴木　厚人	岩手県立大学長
達増　拓也	岩手県知事

【企画委員会委員】

氏　名	所　属・職　名
堀江　　淳	岩手県立大学副学長(総務)／事務局長【企画委員長】
佐々木 泰司	㈱岩手銀行 常務取締役総合企画部長　常務取締役
橋本　良隆	岩手県商工会議所連合会専務理事
藤代　博之	岩手大学理事（研究・復興・地域創生担当）／副学長
白水　伸英	岩手県政策地域部長

【作業部会座長】

氏　名	所　属・職　名
小川　晃子	医療福祉連携作業部会座長　岩手県立大学社会福祉学部教授
鈴木　俊昭	かけ橋作業部会座長　岩手県政策地域部政策推進室調整監
田代　高章	【欠席】 復興教育作業部会座長　岩手大学教育学部教授
森　　達也	いわて復興未来塾作業部会座長　岩手県復興局副局長
小野寺 純治	ふるさといわて創造作業部会座長　岩手大学 学長特別補佐 ／ふるさといわて創造プロジェクト推進コーディネーター
古舘　慶之	ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ推進作業部会座長　岩手県政策地域部科学・情報政策室長
高橋　則仁	新しい三陸創造作業部会座長　岩手県政策地域部地域振興室地域連携推進監
庄司 知恵子	子育て支援作業部会座長　岩手県立大学社会福祉学部准教授

議案第１号

いわて未来づくり機構会則の改正について

いわて未来づくり機構 会則第７の３（３）により、会則の改正について、次の通り承認を求める。

令和元年７月８日

いわて未来づくり機構 会則の改正について

1 改正目的

北上川バレープロジェクトの推進に係るアドバイザリーボードをいわて未来づくり機構に設置すること。

2 改正理由

岩手県が平成 30 年度に策定した「いわて県民計画(2019～2028)」における「北上川バレープロジェクト」の推進に当たっては、いわて未来づくり機構も産学官連携組織として参画していくことが重要となります。

また、戦略的に同プロジェクトを推進するため、有識者の参画のもと大所高所から提言をいただく組織も必要となります。

このため、いわて未来づくり機構に、外部有識者等で構成する「アドバイザリーボード」を設置し、意見、提言等をいただきながら、県と連携し、同プロジェクトの推進に取り組んでいくものです。

3 改正内容

別紙のとおり

4 改正年月日

令和元年７月８日

別紙

いわて未来づくり機構会則の一部改正について

いわて未来づくり機構会則の一部を次のように改正する。

改正前	改正後
	（アドバイザリーボード） 第９　機構に、特定の課題に対し提言を行うアドバイザリーボードを置くことができる。 ２　アドバイザリーボードの設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。 ３　アドバイザリーボードは、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。 ４　アドバイザリーボードの運営については、別に定める。
（作業部会） 第９　（略）	（作業部会） 第10　（略）
（会費） 第10　（略）	（会費） 第11　（略）
（事務局） 第11　（略）	（事務局） 第12　（略）
（その他） 第12　（略）	（その他） 第13　（略）
附則　この会則は、平成20年４月24日から施行する。 附則　この会則は、平成22年５月25日から施行する。 附則　この会則は、平成23年7月19日から施行する。	附則　この会則は、平成20年４月24日から施行する。 附則　この会則は、平成22年５月25日から施行する。 附則　この会則は、平成23年7月19日から施行する。 附則　この会則は、令和元年　月　日から施行する。
備考　改正部分は、下線の部分である。	

参考１

いわて未来づくり機構 会則（改正予定全文）

（名称）

第１　本組織は、「いわて未来づくり機構（以下「機構」という。）」という。

（目的）

第２　機構は､岩手県内で活動する組織が智慧と行動力を結集するためのネットワークを構築し、岩手県の地域社会の総合的な発展に向けて県民力を挙げオール岩手で取り組み、具体的に実践していくことを目的とする。

（構成）

第３　機構は、第２の設置目的に賛同し、事務局に入会の意思を表示した岩手県内で活動する組織（以下「会員」という。）をもって構成する。

（活動事項）

第４　機構は、第２の目的を達成するために次の活動を行う。

(1) 岩手県の地域社会の総合的な発展に資する方策の検討及び実践

(2) (1)に係る情報発信

(3) 会員相互及びラウンドテーブルと会員の意見交換及び情報共有

(4) (1)～(3)を行うためのネットワークづくり

(5) その他、機構の目的を達成するために必要な事項の検討及び実践

（ラウンドテーブル）

第５　機構にラウンドテーブルを置く。

２　ラウンドテーブルメンバーの変更は､ラウンドテーブルメンバーの過半数の承認を得て行う。

３　ラウンドテーブルは、共同代表が必要と認めたとき開催する。

４　ラウンドテーブルは、岩手県の地域社会の総合的な発展のために克服すべき重要な課題について意見を交換し、提言を行う。

５　必要に応じ、学識経験者等にラウンドテーブルへの出席を求めることができる。

（共同代表）

第６　機構に共同代表を若干名置く。

２　共同代表は、ラウンドテーブルメンバーの中から互選する。

３　共同代表は、それぞれが機構を代表し、機構の業務を統括する。

４　共同代表の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

（総会）

第７　総会は、共同代表が招集する。

２　総会の議長は、共同代表が務める。

３　総会は、次の事項を議決する。

(1) 事業計画の決定及び変更

(2) 事業報告の承認

(3) 会則の制定及び改正

(4) その他必要と認められる事項

（企画委員会）

第８　機構に、活動の企画・調整を担う企画委員会を置く。

２　企画委員会は、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。

３　企画委員会に委員長を置く。

４　委員長は、企画委員の中から互選する。

５　企画委員会の運営については、別に定める。

（アドバイザリーボード）

第９　機構に、特定の課題に対し提言を行うアドバイザリーボードを置くことができる。

２　アドバイザリーボードの設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。

３　アドバイザリーボードは、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。

４　アドバイザリーボードの運営については、別に定める。

（作業部会）

第10　機構に、特定の課題に関する連携・協働の方針の策定、協働事業の企画立案及び協働事業の実践並びに必要な調査研究等を行うため、作業部会を置くことができる。

２　作業部会の設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。

３　作業部会は、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。

４　作業部会の運営については、別に定める。

（会費）

第11　機構の会費は、無料とする。ただし、一部事業の実施に伴い、参加負担金等を徴収することができる。

（事務局）

第12　機構の事務を処理するため、事務局を置く。

２　事務局は、ラウンドテーブルメンバーが協力して運営する。

（その他）

第13　この会則に定めるもののほか、機構の運営に関し、必要な事項は、共同代表が別に定める。

附則　この会則は、平成20年４月24日から施行する。

附則　この会則は、平成22年５月25日から施行する。

附則　この会則は、平成23年７月19日から施行する。

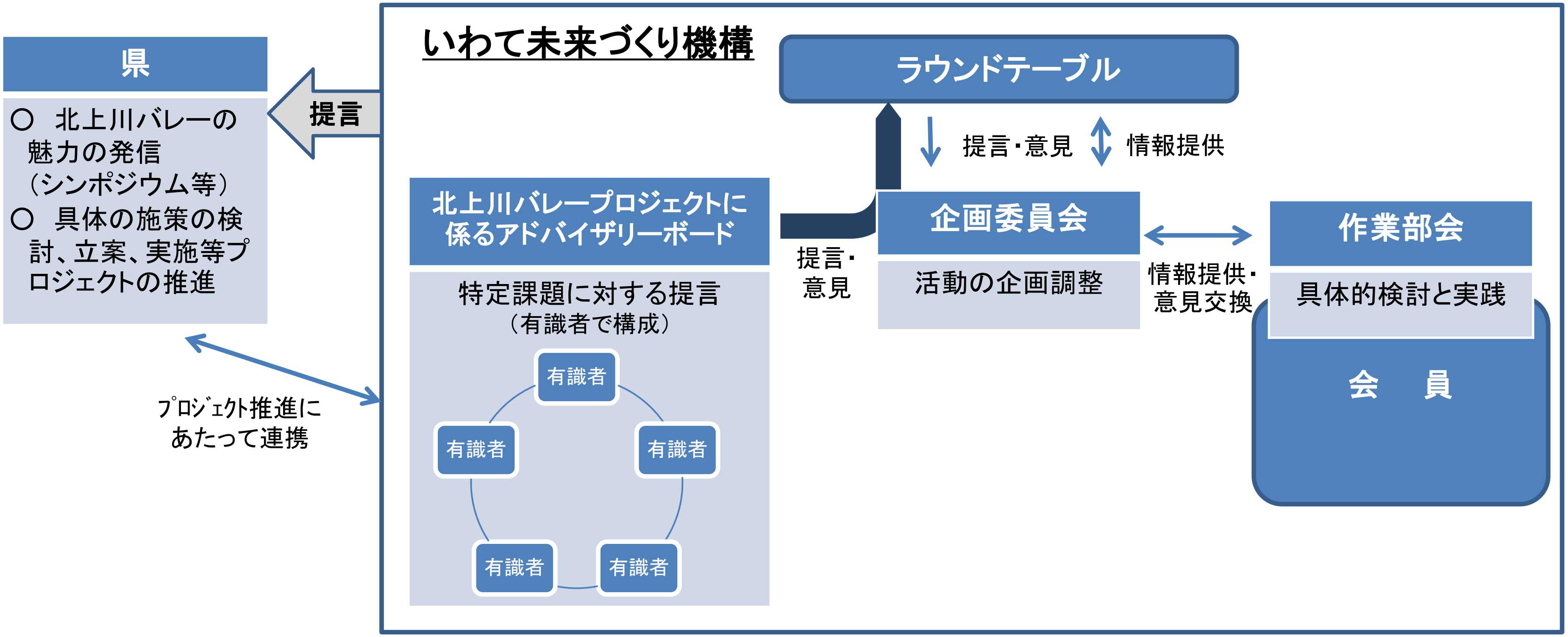
附則　この会則は、令和元年　月　日から施行する。

1　北上川バレープロジェクトの取組の方向性

① 長期の視点を踏まえて、北上川流域の強みを生かした産業振興・生活環境の充実に資する施策を取組の柱として展開。
② 短期的には、直面する人材確保対策及び県南地域における居住・交通対策を喫緊の取組と位置付け。
③ 北上川バレーの情報発信と一体となった取組を展開しながら、エリアの魅力を高め、人が残り、外から人が集まるエリアの形成を重点的に推進。
④ そのため、実用レベルにあるIoT・AI等の第4次産業革命技術を活用した地域課題解決に向けた取組の調査・実証を一つの手段として活用。
⑤ また、将来的なILCの実現や、都市部と中山間地の連携した取組の必要性を踏まえ、ILCプロジェクトや活力ある小集落実現プロジェクト等と連携した取組を推進。

2　いわて未来づくり機構との関連

いわて未来づくり機構に北上川バレープロジェクトの推進に係る組織（アドバイザリーボード）を設置し、中長期を見据えて必要となる取組や様々な可能性について大所高所から提言をいただき、その内容を機構及び県が共有しつつ、連携を図ってプロジェクトを推進。



議案第２号

平成30年度活動実績（案）について

いわて未来づくり機構 会則第７の３（２）により、平成30年度活動実績について、次の通り承認を求める。

令和元年７月８日

いわて未来づくり機構 平成30年度 実績報告

１　総会・ラウンドテーブルの開催

	内　容
■総会 開催日：H 30.5.21(月) 場所：サンセール盛岡	・平成29年度活動実績報告、平成30年度活動計画を承認 ・「復興・観光地域づくりと道路政策　～社会資本政策の総合戦略とイノベーション～　」と題し、日本大学特任教授・筑波大学名誉教授　石田東生氏より講演
■第１回ラウンドテーブル 開催日・場所：　同上	・「新たな社会基盤等を活用した三陸地域の産業振興や交流促進について」をテーマにディスカッション
■第２回ラウンドテーブル 開催日：H 30.11.27(火) 場所：岩手銀行	・ 各作業部会から活動状況を報告し、報告された内容についてディスカッション
■第３回ラウンドテーブル 開催日：H 31.2.4(月) 場所：ホテルメトロポリタン盛岡	・ ふるさといわて創造作業部会が実施した「岩手県への就職・進学に関するアンケート結果」について報告 ・「高等教育機関と連携した地域づくり・人づくり　～地域の未来を拓く新たな価値の創造を目指して～　」と題し、福島大学共生システム理工学類教授 小沢喜仁氏より講演 ・「高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりについて」をテーマにディスカッション

２ 県民運動及び作業部会

県民運動	部会名【担当機関】	主な活動
ILCなど科学技術の進展への対応	イノベーション推進【県】	・部会での検討を基に「岩手県科学技術イノベーション指針」を策定
復興と新たな社会基盤等の活用	かけ橋【県】	・復興支援プロジェクト「いわて三陸復興のかけ橋」を展開 ・復興支援マッチングにおいては25件のマッチングが成立
	いわて復興未来塾【県】	・いわて復興未来塾を3回開催 ・講師等や参加者の意見交換により様々な人的ネットワークを形成
	新しい三陸創造【県】	・ 三陸防災復興ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ2019に向けた機運醸成 ・ ﾗｸﾞﾋﾞｰﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ2019™釜石開催に向けた機運醸成
	復興教育【岩手大】	・「いわての師匠」派遣事業による講師派遣を実施 ・県教委と協議・意見交換会を開催
人口減少下における地域の活力維持	ふるさといわて創造【岩手大】	・「ふるさと発見！大交流会 in Iwate2018」の開催 ・U・I ターンの理由や背景についてのアンケート調査を実施
	医療福祉連携【県立大】	・釜石市における重層的見守り報告会・シンポジウム開催 ・山田町内 災害公営住宅での見守り体制社会実験開始
	子育て支援【県立大】	・育児と仕事の両立において当事者が抱える課題の意見交換 ・シンポジウム「育児と仕事の両立はいかに！！」を開催

３ その他

・活動の企画・調整を担う組織として、企画委員会を3回開催。

議案第３号

令和元年度活動計画（案）について

いわて未来づくり機構 会則第７の３（１）により、令和元年度活動計画（案）について、次の通り承認を求める。

令和元年７月８日

いわて未来づくり機構 令和元年度活動計画(案)

目標

【第3フェーズ目標(2018年度～2022年度)】

科学技術の進展と整備が進む社会基盤を生かした、人口減少に負けない地域づくり
～県民の幸福を守り、育てるために～

県民運動

ILCなど科学技術の進展への対応



復興と新たな社会基盤等の活用



人口減少下における地域の活力維持



作業部会

部会名	イノベーション推進	かけ橋	いわて復興未来塾	新しい三陸創造	復興教育	ふるさといわて創造	医療福祉連携	子育て支援
活動方針	県内各機関の持つポテンシャルを生かしたイノベーションの創出	復興支援プロジェクト「いわて三陸復興のかけ橋」の推進	復興や地域づくりの担い手の育成及びネットワークづくりの推進	大規模イベントの成功とそのレガシーを三陸地域振興等につなげる。	いわての復興教育プログラムの推進支援	地域を担う人材の育成と地元定着の推進支援	地域包括ケアにおける情報通信技術（AI IoT）と社会技術の融合	母と子だけでなく家族全体を支える岩手版ネウボラの開発
主な活動	◆岩手県科学技術イノベーション指針に基づく文化生活面への社会実装、経済分野への展開を推進	◆復興支援マッチングの推進 ◆復興関連情報の発信 ◆復興支援ネットワークの強化	◆復興の担い手となる人づくりの観点から、いわて復興未来塾を年２回開催	◆三陸防災復興プロジェクト2019、ラグビーワールドカップ2019™釜石の着実な実施 ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成	◆復興教育の講師を派遣する「いわての師匠」派遣事業の推進	◆ふるさと発見！大交流会in Iwate2019の開催 ◆地域志向型インターンシップの企画等	◆県と連携した中山間地域における生活支援型コミュニティづくり ◆重度障害者のコミュニケーション支援 ◆認知症とともに暮らせるまちづくり	◆子育て支援環境が整った企業へのインターンシップ実施 ◆ 子育て支援への理解を深めるシンポジウムの開催

情報発信	活動をより効果的に展開していくため、積極的に情報発信を行う。 ① 会員団体の総会等を利用した団体構成員等に対する機構の取組内容の周知 ② 機構だより、電子メール等を利用した会員向け情報提供（随時） ③ 機構ホームページからの一般向け情報発信 ④ 県民の理解増進を図るため、マスコミへの情報提供の強化

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰボード	有識者により構成されるアドバイザリーボードにおいて北上川バレープロジェクトの推進に向けた意見、提言をいただき、県と連携し、同プロジェクトを推進

スケジュール

主要行事	概　要
総会 時期：7/8　15：30～17：00 会場：サンセール盛岡 議長：（経済同友会）高橋共同代表 進行：（県立大）堀江委員長	・機構会則の改正の審議 ・平成30年度活動実績の報告及び令和元年度活動計画の審議 ・講演「脱優等生が創るニッポンの未来」 慶應大学先端生命科学研究所 所長　冨田 勝　氏
第1回ラウンドテーブル 時期：7/8　17：05～18：10 進行：（県）白水委員	・ディスカッション　ILCの誘致や誘致に伴う国際研究拠点の形成とイノベーションの創出について意見交換 ※　終了後交流会を開催
第2回ラウンドテーブル 時期：12/13　10：00～12：00 会場：盛岡市内 進行：未定	・作業部会の活動状況中間報告 ・ディスカッション （中間報告について、意見交換・質疑等）
第3回ラウンドテーブル 時期：2/6　10：00～12：00 会場：盛岡市内 進行：未定	・講演及びディスカッション （その時点における県政の重要課題に応じテーマを決定）

参考資料

いわて未来づくり機構部会
平成30年度実績報告及び令和元年度活動計画

様 式 1

いわて未来づくり機構 医療・福祉連携作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：　地域包括ケアにおける情報通信技術（AI・IoT含む）と社会技術の融合

座長：小川晃子　　担当団体：岩手県立大学

報告要旨

医療・福祉が連携した地域包括ケアに資するために、AI・IoTを含む情報通信技術と、人的見守り体制等の社会技術とが融合したモデル開発と実証に取り組んできた。平成30年度は、山田町災害公営住宅での見守り体制の社会実験を行い、実装に至った。また、コミュニケーションロボット等の社会実験の取り組みも開始し、AI.IoTを活用した見守りへの展開も始めている。

また、医療・福祉サービスを利用するための送迎や、認知症とともに暮らせるまちづくりへの取り組みを始めた。さらに、重度障害者のコミュニケーション支援方策について、医療・福祉・教育関係者への普及を行った。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

平成30年5月25日 ・31年2月15日	重層的見守りの今後の方策検討と、岩手における遠隔医療連携事例に関する事例検討
平成30年8月6日 ・31年1月28日	釜石市平田地区の重層的見守り報告会・シンポジウム（実証実験の成果と課題について地域の医療・福祉関係者等と情報共有した）
平成30年9月27日 ・31年3月22日	山田町災害公営住宅における社会実験の説明と結果聴取
平成30年9月8日	送迎社会実験に関する報告と検討
平成30年1月28日 ・9月27日・2月8日	重度障害児を支援するためのセミナー開催と会議（特別支援学校の教員・保護者・医療・福祉専門職等に視線入力等の活用方法を伝えた）
平成31年3月1日 ・28日	次年度の岩泉町・岩手町での孤立防止とコミュニティづくりフィールドキックオフ

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成30年度活動計画	平成30年度活動状況・成果・課題
① 重層的見守りモデルづくり	① 釜石市平田での重層的見守り社会実験を完了し、地域の実装に引き継いだ。山田町では災害公営住宅における重層的見守りの社会実験を行い、実装に至った。
② AI・IoTを活用した医療・福祉連携見守り開発	② AI・IoT活用事例を調査し、コミュニケーションロボットの見守りの社会実験を3月に開始した。
③ 高齢者の孤立防止とコミュニティづくり	③ 医療・福祉サービス利用のための移送サービスの実証実験を行い検証をするとともに、認知症とともに暮らせるまちづくりへの取り組みを開始した。
④ 重度障害児者のコミュニケーション支援	④ 視線入力等の支援方策に関するセミナーを開催し、県内の支援学校や医療・福祉専門職への普及を図った。

３．今後の活動方針・予定

(1) 岩手県と連携した孤立防止とコミュニティづくり

① 「北いわてにおける生活支援型コミュニティづくり―中山間地域の持続可能な生活を実現する新たな社会技術の確立」（政策地域部地域振興室県北沿岸振興担当等と連携）

② 「岩手県における重層的見守りシステムの検討と構築」（岩手県保健福祉部地域福祉課等との連携）

※ いずれも岩手県立大学地域協働型研究Ⅱ採択

(2) アクションリサーチの継続的展開

① AI・IoTを活用した医療・福祉連携

② 高齢者の終活支援と認知症とともに暮らせるまちづくり

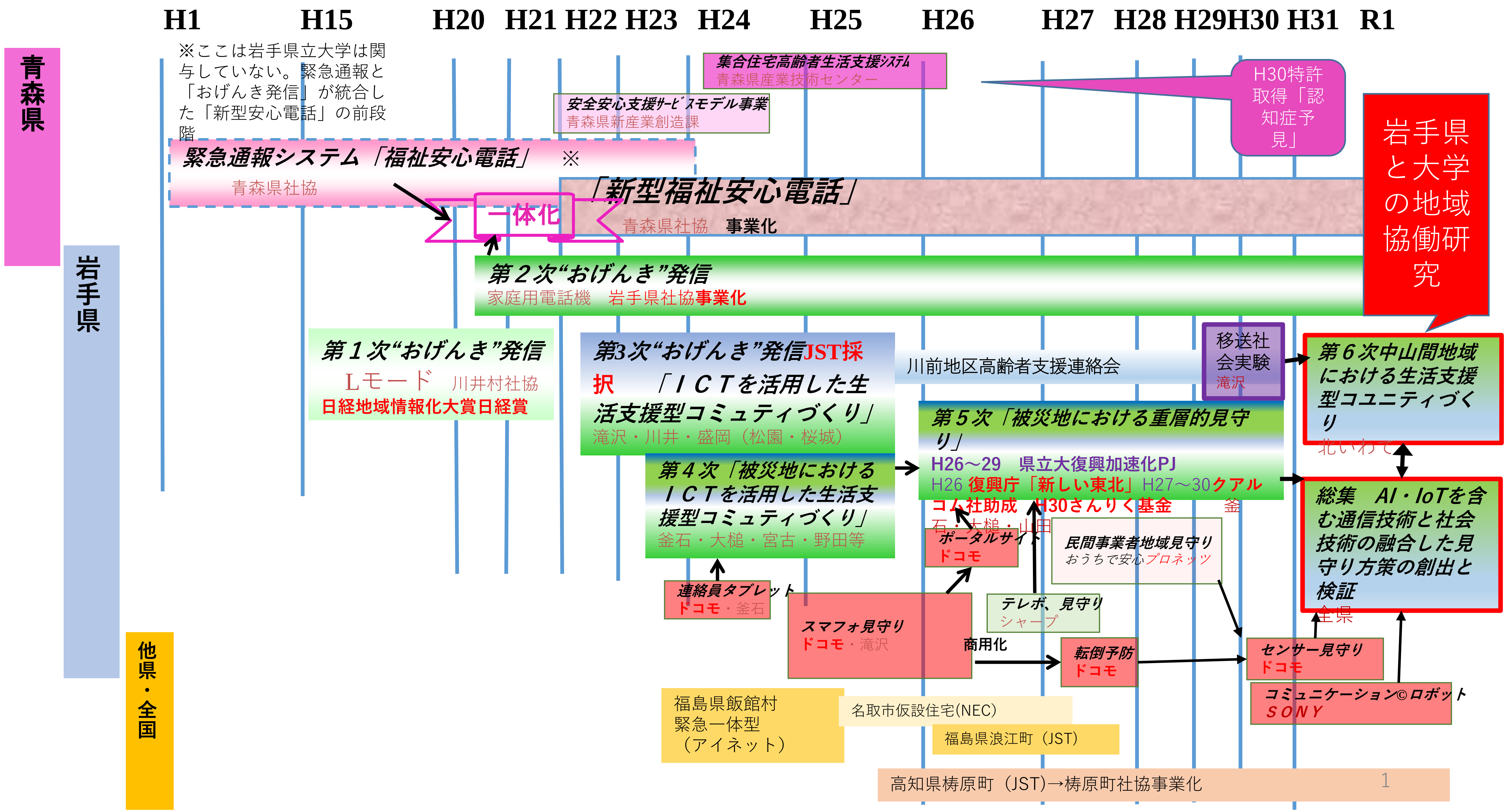
③ 重度障害者のコミュニケーション支援の医療・福祉・教育現場への普及促進

関連イベント

日本遠隔医療学会学術大会　「遠隔医療はもっと身近になる―イーハトーブから次世代へのメッセージ」　10月5日・6日　アイーナ

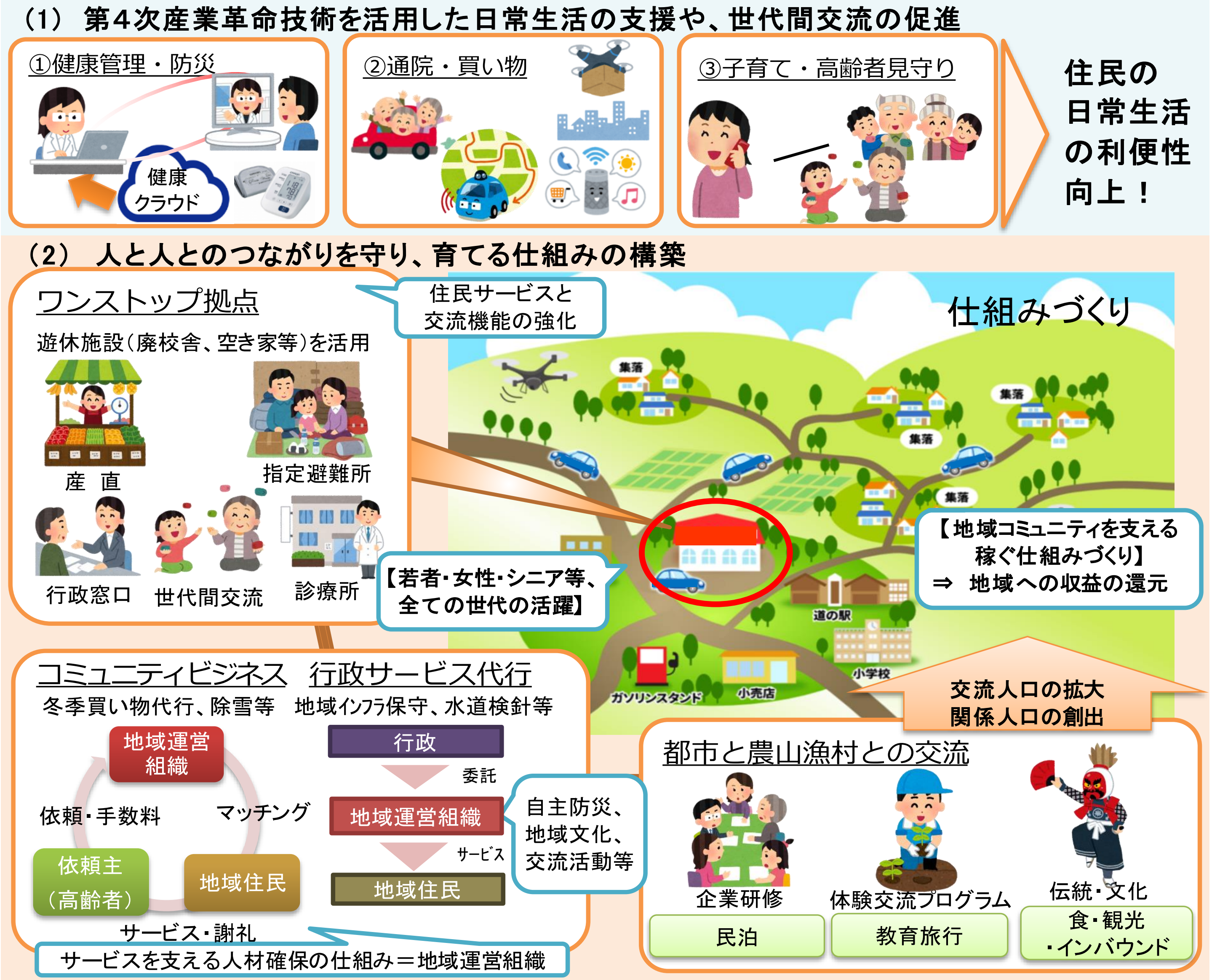
日本社会福祉学会東北ブロック大会　基調講演・シンポジウム「高齢者の孤立防止とコミュニティづくり」　7月27日（日）午後　岩手県立大学講堂

孤立防止と生活支援型コミュニティづくり取り組み動向（大学）



今年度は岩泉町・岩手町のアクションリサーチ

岩手県の「活力ある小集落実現プロジェクト」の目指す姿



（出典）「いわて県民計画（2019～2028）」

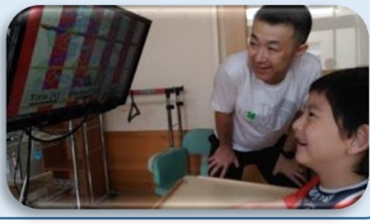
重度障害児・者のための
コミュニケーション支援セミナー in 一関！（案）



障害がたいへん重く、これまで意思の表出が難しいとされていた人でも、テクノロジーを活用することで表出が可能となり、周囲とコミュニケーションが図れるようになります。「視線入力」等の最新のテクノロジーを使いこなせば、大きく生活の質を豊かにすることができるのです。

このセミナーでは、第一線を走る専門家・技術者・支援者による講演や当事者による実演を交えた紹介を行い、参加者の皆さんで、ちょっと先の未来を明るい未来に変えていきます。ICT 機器の体験会や個別の相談会も行います。

日　時　2019 年 6 月 9 日（日）10 時 00 分～15 時 00 分
場　所　岩手県立一関清明支援学校　体育館
内　容　講演・事例紹介　・　個別指導　・　個別相談
定　員　約 70 名
参加費　無料



講　師



伊藤　史人
島根大学総合理工学研究科 助教
EyeMoT シリーズ，振動フィードバックシステムバイブマン開発者。2017 年日本賞クリエイティブ･フロンティア部門最優秀賞、2018 年島根大学研究表彰および優良教育実践表彰を受賞



中島　勝幸
株式会社ユニコーン 代表取締役
視線入力ソフト miyasuku EyeCon 開発者
使用者の要望に応えて文字入力等、操作しやすいソフトに更新し続けている。



林崎　俊男
青森県立浪岡擁護学校 教諭
特別支援学校において視線入力を取り入れた指導に積極的に取り組み、周知活動を行っている。



高橋　正義
秋田県立能代支援学校　教諭
特別支援学校において視線入力の実践･研究に取り組み、実践を丁寧にまとめ公表している。



原田　稜大
栃木県那須塩原市在住　SMAⅠ型当事者
視線入力装置とスイッチを併用し、MMD（3DCG ムービー製作ツール）を使用してクリエイト活動を行っている。15 歳。



柳沼　佑介
神奈川県立中原養護学校　教諭
特別支援学校において視線入力の実践･研究に取り組み、実践の成果をあげている。



引地　晶久（ネット参加）
西部島根医療福祉センター　作業療法士
島根県内のナンバーワン視線入力実践者。
たくさんの子どもたちの「できる」を支援している。

☆ お申し込み・お問い合わせは E-mail で ☆



件名：一関場所 2019 申し込み
本文：(以下の内容を明記してください)
　　氏名／所属／職種／講師への質問（任意）
宛先：E-mail ictiwate2017@gmail.com
　　菊池直実（岩手県立一関清明支援学校）



主　　催　i-C”ｔいわて（特別支援教育 ICT 活用支援グループ）
共　　催　ぽけっとの会　重い障害の子供たち・人たちの地域生活を豊かにする会
　　　　　いわて未来づくり機構　医療・福祉連携作業部会
　　　　　（部会長　岩手県立大学教授　小川晃子）
　　　　　島根大学シューマンインターフェース研究室
後　　援　出雲国スイッチ工房
　　　　　一関市（予定）
　　　　　岩手県重症心身障害児（者）を守る会（予定）
　　　　　社会福祉法人　光林会（予定）

締切は
6 月 7 日
17 時！



様 式 1

いわて未来づくり機構　<u>かけ橋作業部会</u>の実績報告・活動計画

テーマ：「いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト」の推進

座長：鈴木　俊昭　　　　　担当機関：岩手県

報告要旨

<u>プロジェクト概要</u>　　東日本大震災津波からの復旧・復興には、行政はもとより、広く民間等の取組も重要であることから、平成23年から、被災地が抱える課題と県内外からの支援の提案をマッチングさせ、行政や民間、ＮＰＯ等のアイデア、行動力を結集させた取組を展開。

・　被災地の課題は、一過性のものから、産業やコミュニティ再生等の**中長期的な課題に移行**。震災の風化が進み、**県外の一部の企業・団体では、復興支援に代えて**、ＣＳＲ（企業の社会的責任）や企業の利益も目指すＣＳＶ（共通価値の創造）の活動を展開。
　こうした**被災地の環境変化への対応が課題**となっている。

・　平成30年度は、中長期的視野に立った新たなマッチングの醸成のみならず、これまでの取組の「持続化」や「横展開」に向けた取組を展開するとともに、「復興関連情報の発信」、「復興支援ネットワークの強化」の取組も併せて推進した。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）	
平成30年9月12日	第11回作業部会開催 ・ かけ橋作業部会の活動状況について ・ 当部会の来年度の方向性について
平成31年3月12日	第12回作業部会開催 ・ 平成30年度活動実績(案) ・ (一社)RCF及びいわて三陸復興のかけ橋推進協議会の活動状況について ・平成31年度活動計画(案)について ・その他

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成30年度事業計画	**平成30年度事業実績･成果**
(1) 復興支援マッチング 短期、中長期の支援について以下の２系統の体制で対応。 ①　短期的支援 物資供与やボランティア派遣等の支援マッチングは、一定のニーズがあることから継続して対応。 ②　中長期的支援 産業再生やコミュニティ再生等の支援マッチングの要請に重点的に対応。 **【目標：支援件数　30件】**	①　「いわて三陸復興のかけ橋推進協議会」に配置する復興支援員を中心に実施し、５件をマッチング。 ②　業務委託先の（一社）ＲＣＦを中心に、被災地の課題やニーズを把握し、首都圏の企業等59社を訪問し、復興支援の誘致に注力。結果、25件のマッチングに至る。 **【実績：30件】**
(2) 復興関連情報の発信 被災地の復興の進捗状況や様々な活動を復興支援ポータルサイト「いわて三陸復興のかけ橋」やツイッター、フェイスブック等により総合的に情報発信。 【目標：復興トピックス掲載数　400件】	ポータルサイトにおいて、被災地への関心が高まる情報や支援マッチングの事例等を随時掲載したほか、ＳＮＳを活用し情報発信。 【実績：681件】
(3) 復興支援ネットワークの強化 復興支援を速やかに実現できるよう、都内で「岩手かけ橋共創ネットワーク会議」を開催し、県内外のネットワークを構築・強化する。 **【目標：ネットワーク構築企業数　90 社】** **メーリングリスト登録企業数**	ネットワーク会議をH30.9及びH31.2の２回開催し沿岸被災地の現状やニーズの紹介や、支援企業の活動について情報交換。その他、メーリングリスト等も活用しながら支援提案等の情報を積極的に提供。 【実績：92社】

事業課題

首都圏では、震災の風化が懸念され、企業の支援の意向も変化している。

また、復興の段階が移行する中で、被災地の課題も変化しており、これらに適切に対応することが求められている。

① 首都圏の企業のシーズと被災地の団体のニーズ双方の的確な把握

② 当プロジェクトとその成果の情報発信

③ これまで関係を構築した県内外の企業・団体との関係性の継続

３．今後の活動方針・予定

首都圏企業の復興支援に対する意向の変化を把握しつつ、被災地の団体のニーズや復興の段階に応じ、「復興支援マッチング」等の取組を実施。

また、これまで業務委託により推進していた中長期的支援のマッチングについて、委託終了後の体制を見据えた活動内容の整理、移行を進める。

① 復興支援マッチング

中長期的支援を主力としつつ。引続き２系統での体制で復興支援マッチングを推進。

- 産業再生等に係る支援マッチングについては、連携や協働に意欲のある企業を中心に首都圏等の企業のビジネス展開にもつながる協働事業の誘引を図るとともに、（一社）ＲＣＦから、いわて三陸復興のかけ橋推進協議会へのノウハウの継承を図る。
- 物資供与やボランティア派遣等の従前からの支援マッチングは、いわて三陸復興のかけ橋推進協議会を中心に対応。

【目標：支援件数　15 件】

② 復興関連情報の発信

被災地の復興状況及び支援ニーズを伝えるため、復興支援ポータルサイト「いわて三陸復興のかけ橋」やＳＮＳ等により総合的に情報発信。

【目標：ポータルサイト等アクセス数　220,000 アクセス】

③ 復興支援ネットワークの強化

速やかな復興支援の実現及び事業の継続や展開を目指した、県内外のネットワークの構築・強化。

【目標：ネットワーク組織会員企業・団体数　90 社】

参考資料：平成 30 年度取組事例

1　復興支援マッチング

【取組事例①】コナミグループ社員会

1　陸前高田市社会福祉協議会とマッチングし、同社スポーツクラブインストラクターのボランティアによるシニア向けの健康教室を、陸前高田市の長部コミュニティセンターで開催

2　陸前高田市教育委員会とマッチングし、オリンピアンを含む同社体操競技部選手による市内の小学生向けの交流イベントを開催



1　シニア向け健康教室



2　体操選手による復興支援イベント

【取組事例②】ネスレ日本㈱

1　宮古市社協とマッチングの上、同会が運営する各地区の拠点に、同社の「ネスカフェバリスタ」を無償で設置

2　また、同会が主催する「わくわくまつり」に同社が出展。コーヒーマシンを使った健康飲料の提供や、「高齢者見守りサービス」のデモンストレーションを実施



【わくわくまつりでの様子】

【取組事例③】愛知県の福祉法人「さわやかの丘」による小学校の備品の支援

1　愛知県の福祉法人では同法人が開催した祭りにて寄せられた義援金を活用した助成事業を平成26年度から継続して実施

2　かけ橋協議会で沿岸市町村の教育委員会にニーズ調査を行い、同法人で検討の結果、陸前高田市立広田小学校への屋外時計及びピアノ用イスの贈呈に至る



【屋外用時計】



【ピアノ用イス】

【取組事例④】アサヒグループホールディングス㈱

1　機構と同社が平成26年12月に締結したアライアンスに基づき、「いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト」の一環として、被災市町村の郷土芸能の保存・発展に寄与するコミュニティ活動を支援する「アサヒグループ・コミュニティ助成事業」の実施に全面協力

2　平成30年度は沿岸12市町村28団体に1,500万円を超える助成を実施



【目録贈呈式（平成30年８月24日）】



【支援対象の山車（陸前高田市）】

２　復興関連情報の発信

【情報発信①】復興支援ポータルサイト、ＳＮＳによる情報発信

■ポータルサイト「いわて三陸復興のかけ橋」を管理・運営　　　■ＳＮＳで情報を随時拡散（Twitter、Facebook）







【情報発信②】オルタナ・オンラインページ等での情報発信



【情報発信③】ポータルサイト掲載　復興トピックス記事例①

【写真で見る復興】<釜石市>　　鵜住居駅 新駅舎(2)





コメント	<釜石市>　鵜住居駅 新駅舎(2) 東日本大震災津波で被災した釜石市鵜住居地区の「鵜住居駅」の新駅舎は平成30年8月に完成。 駅名を記した「駅名標」が建てられ、ホームに続く通路には手すりも整備されました。 JR山田線(宮古～釜石間)は1月28日から、運転再開後に使用する車両を用いた試運転が始まります。 (平成31年1月11日撮影)
リンク	

【情報発信③】ポータルサイト掲載　復興トピックス記事例②

復興トピックス

2018年08月17日

【復興ボイス（6）】普代村で地域おこし協力隊として活動する山火智美さん。6月にはカフェをオープン！

登録番号	TP18081700１
市町村名	普代村
詳細記事	普代村で地域おこし協力隊として活動する山火智美さん。地域づくりをミッションとし、平成30年6月には「地域の新たな交流の場にしたい」と使用されていなかった旧村役場の村長室を活用して、カフェ「普代参拾伍（さんじゅうご）番館」をオープンした。移住を始めて1年半。活動について伺った。 ○　素朴さが魅力的だった 出身は岩手県滝沢市で、高校を卒業して東京に進学しました。当初はおしゃれな環境に憧れもあって、都会での暮らしを楽しんでいました。引っ越しが好きで、居住地を変えていましたが年々、郊外へと移動していることに気が付いたんです。いつしか、都会暮らしに満足した自分がいて、便利さはなくても人間らしい生活ができる場所で仕事がしたいと思うようになりました。 そこで、以前から興味のあった地域おこし協力隊になろうと募集を探しました。おしゃれな募集サイトが多くて「どこへ行っても同じなのでは」と思っていた矢先、普代村の素朴な募集サイトが目に留まりました。人口2,900人余りのコンビニもない村は、魅力的でしたね。下見がてら普代村を訪れたときに「どこから来たの？」「これ食べて」と気さくに声をかけてくれる住人が多くて驚きましたが、人間らしさや温かさが心地よく感じて、地域おこし協力隊へ応募することに決めました。 ○　新たな交流の場として 村内には地区の住民同士が集まる場所はありましたが、誰もが気軽に集える場所がありませんでした。「ここに来れば誰かいる」そんな場所があればと思い、交流スペース兼カフェ開業の企画を村役場へ提案しました。村役場はとても協力的ですぐに許可が下り、場所として希望した旧村役場の使用も快く承諾してくれました。店名を「普代参拾伍（さんじゅうご）番館」に決めたのは、村の市内局番が「35」なので、覚えやすさからです。 今年3月からリノベーションを始めて、手作業で天井を塗ったり照明をリメイクしたりと、少しずつ進めてきました。地域の人たちも、使用していない物品の提供やテーブルクロスの作成など協力をしてくれて、6月1日にオープンすることができました。 カフェでのおすすめは、地元のホウレンソウを使用したスムージー「hayato（はやと）」、生産者の名前を付けています。地のモノを使用したメニューは、今後も増やしていく予定です。 ○　ミッションは「地域づくり」 今後はカフェを利用して、カルチャースクールやイベントも行っていきたいです。村内だけではなく、村ならではの体験メニューで外からの交流人口を増やし、住民が積極的に活動できる仕組みづくりをしていきたいです。

３　復興支援ネットワークの強化

【ネットワーク構築事例】岩手かけ橋共創ネットワーク会議の開催

首都圏の企業等と、県及び市町村の担当者等が、意見交換する機会を都内で提供。
企業・自治体のネットワークの強化を図り、発展的なマッチングの実現を目的として開催しているもの。

第１回

日　時：平成30年９月６日
場　所：東京都千代田区（Nagatacho GRID）
参加者：34名
主な内容

- 県から三陸防災復興プロジェクト2019や岩泉町の平成28年台風第10号災害からの復旧・復興状況を説明。
- 地域の取組としてかまいしＤＭＣ、特定非営利法人ＳＥＴから、また、企業の取組としてキリン㈱、ＮＥＣソリューションイノベータ㈱から発表。
- 「岩手県」「地域」「企業」の３つのブースごとに意見交換を実施。

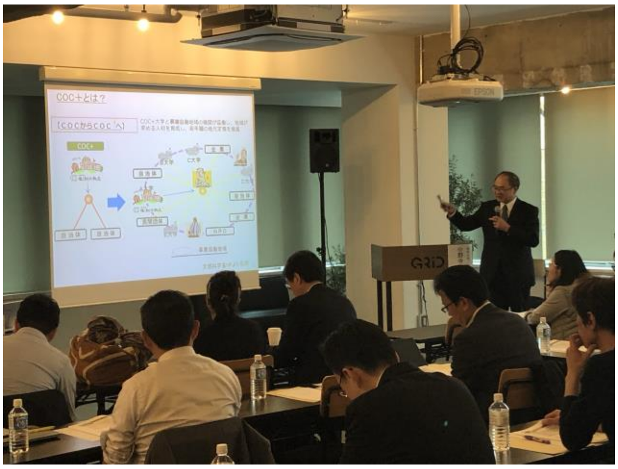


グループディスカッション

第２回

日　時：平成31年２月12日
場　所：東京都千代田区（Nagatacho GRID）
参加者：31名
主な内容

- 県からこれまでの事業成果や現在の地域課題等を説明。
- 地域の取組として岩手大学、三陸鉄道㈱から、企業の取組としてネスレ日本㈱、ＬＩＦＵＬＬ㈱から発表。
- 「岩手県」「岩手大学」「三陸鉄道」の３つのブースごとに意見交換を実施。



地域の取組の発表（岩大　小野寺氏）

様 式 1

いわて未来づくり機構 復興教育作業部会の実績報告・活動計画

テーマ： 復興を担う人材の育成

座長：田代 高章 担当団体：岩手大学

報告要旨

本作業部会では、「いわての復興教育プログラム」に基づいた「いわての師匠」派遣事業を平成26年度から実施している。

平成30年度においても、引き続き学校からの依頼に基づき、１件の講師派遣を実施した。

派遣実績が年々減少傾向にあり、一方で事務局をとおさず学校から講師へ直接派遣を依頼しているケースもあることから、学校側と講師とのパイプができあがり、本作業部会が果たすべき役割は達成したものとし、作業部会を終える検討を進めていた。しかし、岩手県教育委員会との協議を通じて本派遣事業に関して潜在的なニーズはあり、これまでと継続した派遣実施の要請があったことから、方針を変更し、継続した実施に向けた協議（課題の抽出等）を岩手県教育委員会と行った。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

平成31年3月8日 岩手県教育委員会と協議
- 実施要項、派遣リストの見直しについて
- 効果的な周知方法について

平成31年4月26日 第１回作業部会
- 「いわての師匠」派遣事業について、実施要項、派遣リストの見直しについて協議

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成30年度活動計画	平成30年度活動状況・成果・課題
○「いわての師匠」派遣事業の実施	○ 学校からの依頼に基づき、１件の講師派遣（西根中へ岩手医科大学を派遣）を実施した。
○「いわての復興教育プログラム」が平成30年度で区切りとなるため、平成31年度以降の検討	○ 岩手県教育委員会との協議により、現在公開されている実施要項、派遣リストの課題が明確となったため、これらの見直しを次年度に行うこととした。

３．今後の活動方針・予定

潜在的なニーズを掘り起こし、派遣実施件数を増加させることを目的として、以下の活動を重点的に実施する。

○「いわての師匠」派遣事業の実施要項等を各学校の教員が活用しやすいよう、岩手県教育委員会からアドバイスを得ながら、見直しを行う。なお、見直し作業を行っている間も講師派遣が途切れぬよう、これまでと同様の事業を継続して実施する。

○岩手県教育委員会の協力のもと、見直した実施要項等を学校関係者が集まる会議（小中高等学校校長会議）等で配布し、周知を行う。

○以下の時期を目途に作業部会を開催し、委員に内容を共有する。

・見直し後の実施要項（案）の作成時（7月頃） ・年度の総括（2月頃）

平成 30 年度 「いわての師匠」派遣事業　実施事例集

【事例①】八幡平市立西根中学校への講師派遣

日時 ：　平成３０年７月２日（月）１０時４５分～１２時３５分
場所 ：　西根中学校
対象 ：　西根中学校　第２学年　８６名
講師 ：　岩手医科大学　眞瀬　智彦　教授、　藤原　弘之　准教授
藤原　淳一　教務課長、　蒲澤　優、奥野　史寛、高須　翠
演題 ：　『災害医療について』

＜講演要旨＞
・災害医療について
・トリアージ、衛星電話、トランシーバー、ラップポンについて体験

＜生徒からの感想＞
・災害時に治療の優先順を決めて、一人一人の治療をするには、迅速で的確な行動が大切だと思った。中学生として少しでも助けることができるような行動をしていきたい。また、災害時用の道具はあらゆるケースに対応でき、わかりやすい使い方でとても有能なものだと思った。
・「災害医療」とは限りある資材で多くの人を助けることであることがわかった。人の命に優先順位をつけるのはつらいことだが、多くの命を助けるためには仕方がないことだと思った。今回の話しを聞いて、多くの命を助けたいという思いが伝わってきた。「自助」「共助」がとても大切だと感じた。

＜写真＞





様 式 1

いわて未来づくり機構 いわて復興未来塾作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：復興や地域づくりの担い手の育成及び人材のネットワークづくり

座長：森　達也　　　　担当団体：岩手県復興局

報告要旨

復興を担う個人や団体など多様な主体に学びの場を提供するとともに、相互の交流や連携を図りながら、復興や地域づくりの担い手の育成と人材のネットワークづくりを推進するため、「いわて復興未来塾」を３回開催した。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

回	開催日時	会場	テーマ	参加者数
第１回	平成 30 年 7 月 17 日（火）	アイーナ７階 小田島組☆ほーる	「東日本大震災からの 復旧と復興」	約 310 名
第２回	平成 30 年 9 月 16 日（日）	釜石情報交流 センター	「SDGs を考える～持続 可能な地域づくり～」	約 120 名
第３回	平成 30 年 12 月 16 日（日）	エスポワールいわて ２階第ホール	「未来のための伝承・ 発信」	約 120 名

※各回の詳細は、別紙のとおり。

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成30年度活動計画	平成30年度活動状況・成果・課題
（１）目標・出すべき成果 より良い復興の実現に向け、復興に関わりたいと考えている多くの方々に復興に関する学びの場を提供するとともに、参加された方々の交流や連携を推進する。 （２）活動計画 いわて復興未来塾を年３回開催。 ・７月 17 日(火)第１回 国際防災・危機管理研究岩手会議と併催 ・９月 16 日(日)第２回 沿岸地域で開催 ・12 月第３回 いわて三陸復興フォーラムと併催	（１）活動状況・成果 ・開催状況は上記１のとおり。 ・県民計画（2019～2028）策定にも資するよう、SDGsや東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓の伝承・発信をテーマとしながら、県民と議論する場を設けることができた。 ・国際会議との併催により、国外に震災の教訓や復興の姿を発信するとともに、海外の研究者から見た復興や防災について学ぶ機会を作ることができた。 ・塾終了後の交流会では講師等と参加者が意見交換を行うことにより、様々な人的ネットワークの形成につながった。 （２）課題 本塾に、より多くの人たちに参加いただけるよう、既参加者を通じた勧誘を含め周知に力を入れる必要がある。

３．今後の活動方針・予定

（１）目標・出すべき成果

より良い復興の実現に向け、復興に関わりたいと考えている多くの方々に復興に関する学びの場を提供するとともに、参加された方々の交流や連携を推進する。

（２）活動計画

上記観点を踏まえつつも、今後は６～８月に三陸防災復興シンポジウムが４回開催されることを考慮し、いわて復興未来塾を年２回開催する。第１回は、令和元年 11 月 16 日（土）に陸前高田市内で開催予定としている。第２回は、令和２年１月 26 日（日）に「いわて三陸復興フォーラム」と併せて盛岡市内で開催予定としている。

参考資料

2019年度いわて復興未来塾の開催について

1　開催方針

（１）　今年度上半期には、三陸復興防災シンポジウム2019において４回のシンポジウム（６月、７月）を予定していること、またラグビーワールドカップ2019™釜石開催（９月～11月）が予定されていることから、未来塾は下半期（11月、１月）に２回開催する。

（２）　各回にテーマを設け、講師による基調講演及びパネルディスカッションを実施する。

2　開催計画（案）

	開催日	テーマ
第１回 （陸前高田市）	11月16日 （土）	「思いを伝え、つなぐ。未来のための伝承・発信（仮題）」
		東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓や復興の姿を国内外の人々に伝えるとともに、復興を担う人材や人的ネットワークづくりの強化を図る。
第２回 （盛岡市） ※「いわて三陸復興フォーラム」との併催	１月26日 （日）	「東日本大震災津波から間もなく９年、被災地＝復興地の今とこれから（仮題）」
		大震災から間もなく９年を迎えようとしている被災地の状況とこれからを考えることにより、風化を防ぎ、将来にわたり復興への理解を深め、継続的な復興への参画を促進する。

3　参考

三陸防災復興シンポジウムについては、別添チラシのとおり。

参考資料

いわて復興未来塾　平成３０年度　開催実績

	日程	会場	テーマ／講師・パネリスト
第１回※1	H30.07.17 （火）	アイーナ7階 小田島組☆ほーる （参加者 約 310 名）	基調報告「東日本大震災からの復旧と復興」 岩手県知事　達増 拓也 釜石市長　野田 武則 氏 講評：Arnold Howitt 氏 （ハーバード大学ケネディ行政大学院アッシュセンター顧問）
			事例報告 「危機管理と防災　東日本大震災から得た教訓」 越野 修三 氏（岩手大学地域防災研究センター　客員教授） 望月　正彦 氏（元三陸鉄道㈱ 代表取締役社長） 神谷 未生 氏（(一社)おらが大槌夢広場 事務局長） 講評：Arjen Boin 氏（ライデン大学政治学研究所教授）
第2回	H30.09.16 （日）	釜石情報交流センター チームスマイル・釜石PIT （参加者 約 120 名）	基調報告「SDGsを考える～持続可能な地域づくり～」 黒田 かをり 氏（一般社団法人CSOネットワーク事務局長・理事）
			パネルディスカッション 「持続可能な地域づくり」 ・コーディネーター 石井 重成 氏（釜石市総務企画部オープンシティ 推進室長） ・ パネリスト 平舘 豊 氏（RAY LAB合同会社 代表社員） 菅野 祐太 氏（認定NPO法人カタリバ東北復興事業部 ディレクター） 細江 絵梨 氏（釜石ローカルベンチャー一般社団法人根浜MIND）
第3回※2	H30.12.16 （日）	エスポワールいわて 2階大ホール （参加者 約 120 名）	基調講演「未来のための伝承・発信」 畑中　憲宏　氏（民俗学者）
			パネルディスカッション 「未来のための震災の教訓の伝承」 ・ コーディネーター 江幡 平三郎 氏(株式会社IBC岩手放送) ・ パネリスト 森本 晋也 氏(岩手大学大学院教育学研究科　准教授) 柴山 明寛 氏(東北大学災害科学国際研究所　准教授) 田中 美咲 氏(一般社団法人防災ガール 代表理事)

※1　国際防災・危機管理研究　岩手会議と併催
※2　いわて三陸復興フォーラム　全体会と併催

三陸防災復興プロジェクト 2019



第２回

三陸防災復興シンポジウム2019

なりわいの再生と新たな三陸の創造
～三陸の豊かさを生かした持続可能な産業を考える～

参加無料
どなたでも参加できます!

シンポジウム
2019年6月28日（金）
13：30～16：00（予定）
久慈市文化会館１階　小ホール

13:30～13:35	開会・主催者挨拶
13:35～13:40	久慈市長挨拶
13:40～14:40	基調講演

産業分野におけるリスクマネジメント
一橋大学名誉教授　関　満博 氏



＜略歴＞
1948年富山県小矢部市生まれ。
専門は地域産業論。
1971年成城大学経済学部卒業。1976年成城大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。専修大学商学部助教授、一橋大学商学部教授などを経て、2011年より現職。
これまで岩手県東日本大震災津波からの復興に係る専門委員、北上市産業振興アドバイザーなども務める。

14:50～16:00	事例報告

株式会社ひろの屋代表取締役　下苧坪　之典 氏

久慈地域エネルギー株式会社取締役　若林　治男 氏

16:00	閉会

エクスカーション
2019年6月29日（土）
9：30～14：30（予定）
無料バス運行（定員３０名）

9:30	久慈駅前発
10:00～11:15	久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ

北いわて・学びのプログラム（語り部ガイド）
震災から立ち上がった施設の取組等の説明・館内見学

11:45～12:45	道の駅のだ

昼食休憩
※昼食は参加者負担となります。施設内のレストランをご利用いただくか。各自でご準備願います。

13:00～14:00	涼海の丘ワイナリー

震災後に起業したワイナリーの工場見学

14:30	久慈駅前着・解散
17:00	盛岡駅西口着・解散

<会場案内：久慈市文化会館>
〒028-0051 岩手県久慈市川崎町17番1号
※会場情報や会場周辺の地図はこちらから ➡
※駐車場には限りがございますので、無料シャトルバスや公共交通機関の利用にご協力をお願いします。

事務局：岩手県復興局復興推進課
問合せ先：　TEL:019-629-6945　FAX:019-629-6944　E-mail:AJ0001@pref.iwate.jp

盛岡 ⇔ 久慈 往復無料バスの御案内　（定員50人）

6月28日(金)のシンポジウム当日は、盛岡・久慈間で往復バスを運行します。
座席数に限りがありますので、申込みはお早めにお願いします。

◆往路： 盛岡駅西口バスターミナル発　10:00発　➡　久慈市文化会館（会場）　12:30着
◆復路： 久慈市文化会館（会場）　16:30発　➡　盛岡駅西口バスターミナル　19:00着

問い合わせ先

事務局：岩手県復興局復興推進課
〒020-8570　盛岡市内丸10-1
TEL：019-629-6945
FAX：019-629-6944
E-mail：AJ0001@pref.iwate.jp

申込締切

6月１４日(金)

申込方法

下記のいずれかの方法で申込みください。

E-mail で申込み

件名を「**第2回三陸防災復興シンポジウム**」として、下記の必要事項をご記入の上、申込みください。

■氏名（ふりがな）　■所属・団体名等
■住所　■電話番号
■バス利用の有無

E-mail	AJ0001@pref.iwate.jp

FAX又は郵送で申込み

下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、申込みください。

※郵送の場合は締切日必着でお願いします。

FAX	019-629-6944

第２回　三陸防災復興シンポジウム　参加申込書
FAX：　019-629-6944

ふりがな 代表者氏名		ふりがな 同伴者氏名	
ふりがな 同伴者氏名		ふりがな 同伴者氏名	
代表者住所	〒		
電話番号		FAX番号	

<希望内容>　参加・利用を希望するものに○をつけてください。　※参加無料

開催日	項 目		希 望
6月28日(金)	シンポジウム　（久慈市文化会館　小ホール　13：30～16：00）		
	盛岡 ⇔ 久慈 無料バス	【往路】盛岡駅西口バスターミナル（10：00発） ⇒　久慈市文化会館（12:30着）	
		【復路】久慈市文化会館（16:30発） ⇒　盛岡駅西口バスターミナル（19:00着）	
6月29日(土)	エクスカーション　（久慈駅 9:30発　～　久慈駅 14:30解散）		
	エクスカーション　（久慈駅 9:30発　～　盛岡駅 17:00解散）		

※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき、他の用途には一切使用しません。

三陸防災復興プロジェクト 2019

第３回

三陸防災復興シンポジウム2019

コミュニティを基盤とした防災力の向上
～つながりの力で災害から地域を守る～



参加無料
どなたでも参加できます!

シンポジウム
2019年7月19日（金）
13:30～16:00（予定）
大船渡市民体育館

エクスカーション
2019年7月20日（土）
10:00～14:20（予定）
無料バス運行（定員３０名）

シンポジウム

- 13:30～13:35 開会・主催者挨拶
- 13:35～13:40 大船渡市長挨拶
- 13:40～14:40 基調講演



地域の防災力を高める
国士舘大学　防災・救急救助総合研究所
教授　山﨑　登 氏

＜略歴＞
1954年長野県大町市生まれ。1976年にNHK入局し、NHK解説委員（自然災害・防災担当）を務めた後、2017年より現職。
これまでに阪神・淡路大震災、台湾地震、新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害などを取材。
2018年に防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

- 14:50～16:00 事例報告

災害伝承語り部　吉田 忠雄 氏
岩泉町 危機管理監　佐々木 重光 氏

- 16:00 閉会

エクスカーション

- 9:50 大船渡温泉発

※　希望者はバス乗車可能（裏面で申込）

- 10:00～10:45 大船渡市防災観光交流センター(おおふなぽーと)

センター正面「多目的広場」集合
大船渡市の復興まちづくりの取組説明及び施設見学

- 11:00～11:45 赤崎地区公民館・漁村センター

震災当時の避難の様子や避難所運営について説明

- 12:00～12:50 キャッセン大船渡

昼食休憩
参加者負担となります。近隣の飲食店をご利用ください。

- 13:20～14:20 陸前高田市内 震災遺構など

陸前高田観光ガイド部会
語り部ガイドが同乗し、震災からの復興状況を説明

- 14:20 JR大船渡線「交通広場」着・解散
- 16:35 盛岡駅西口着・解散

＜会場案内：大船渡市民体育館＞　〒022-0003 大船渡市盛町中道下1-1
※会場情報や会場周辺の地図は、右のQRコードからご確認いただけます。
※駐車場には限りがございますので、無料シャトルバスや公共交通機関の利用にご協力をお願いします。

⇦ 大船渡市民体育館アクセス情報

事務局：岩手県復興局復興推進課
問合せ先：　TEL:019-629-6945　FAX:019-629-6944　E-mail:AJ0001@pref.iwate.jp

盛岡 ⇔ 大船渡 往復無料バスの御案内　（定員50人）

７月19日(金)のシンポジウム当日は、盛岡・大船渡間で往復バスを運行します。
座席数に限りがありますので、申込みはお早めにお願いします。

◆往路： 盛岡駅西口バスターミナル発　10:30発　➡　大船渡市民体育館（会場）　12:45着
◆復路： 大船渡市民体育館（会場）　16:30発　➡　盛岡駅西口バスターミナル　18:45着

問い合わせ先

事務局：岩手県復興局復興推進課
〒020-8570　盛岡市内丸10-1
TEL：019-629-6945
FAX：019-629-6944
E-mail：AJ0001@pref.iwate.jp

三陸防災復興プロジェクト 2019

申込方法

下記のいずれかの方法で申込みください。

E-mail で申込み

件名を「**第３回三陸防災復興シンポジウム**」として、下記の必要事項をご記入の上、申込みください。

- ■氏名（ふりがな）
- ■所属・団体名等
- ■住所
- ■電話番号
- ■バス利用の有無

E-mail　AJ0001@pref.iwate.jp

FAX又は郵送で申込み

下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、申込みください。

※郵送の場合は締切日必着でお願いします。

FAX　019-629-6944

第３回　三陸防災復興シンポジウム　参加申込書
FAX：　019-629-6944

ふりがな 代表者氏名		ふりがな 同伴者氏名	
ふりがな 同伴者氏名		ふりがな 同伴者氏名	
代表者住所	〒		
電話番号		FAX番号	

＜希望内容＞　参加・利用を希望するものに○をつけてください。　※参加無料

<table>
<tr><th>開催日</th><th colspan="3">項 目</th><th>希 望</th></tr>
<tr><td rowspan="3">7/19
(金)</td><td colspan="3">シンポジウム　（大船渡市民体育館　13：30～16：00）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">盛岡⇔大船渡
無料バス</td><td colspan="2">【往路】盛岡駅西口バスターミナル（10：30発）
⇒　大船渡市民体育館（12:45着）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">【復路】大船渡市民体育館（16:30発）
⇒　盛岡駅西口バスターミナル（18:45着）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">7/20
(土)</td><td rowspan="4">エクスカーション

※乗車場所・降車場所それぞれに「○」記入。</td><td rowspan="2">乗車
場所</td><td>大船渡温泉（9:50発）</td><td></td></tr>
<tr><td>大船渡防災観光交流センター（10:00集合）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">降車
場所</td><td>JR大船渡線「交通広場」(BRT陸前高田駅前)（14:20着）</td><td></td></tr>
<tr><td>盛岡駅西口バスターミナル（18:45着）</td><td></td></tr>
</table>

※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき、他の用途には一切使用しません。

様 式 1

いわて未来づくり機構 ふるさといわて創造作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：地元大学生及び首都圏大学生の岩手県内就職の促進

座長：小野寺 純治　　　　担当団体：

報告要旨

「ふるさといわて推進協議会」と「いわてで働こう推進協議会」等との連携により、地元大学生と県内事業所とが交流を行う「ふるさと発見！大交流会in Iwate2018」を実行委員会方式により開催した。また、ふるさといわて創造協議会が平成28年度から取り組んできた地域で働くことと暮らすことを学ぶ「地域志向型インターンシップ」について、首都圏協力大学への周知活動を開始した。さらに、機構会員企業を対象にU･Iターン促進のための調査を実施した。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

【学生と企業等との交流の場の創出】

平成30年4月24日	「ふるさと発見！大交流会in Iwate2018」第1回実行委員会開催 ・開催方針の検討
平成30年7月6日	同第2回実行委員会 ・予算案の審議 ・出展団体の決定等
平成30年12月6日	同第3回実行委員会 ・当日の進行方法等
平成30年12月15日	「ふるさと発見！大交流会in Iwate2018」開催
平成31年1月25日	同第4回実行委員会 ・開催結果報告 ・次年度の対応方針検討

【地域志向型インターンシップ首都圏協力大学等への働きかけ】

平成31年3月20日	COC＋の首都圏協力大学である首都大学東京、横浜国立大学、北里大学を訪問して担当部署に説明

【アンケートの実施】

平成30年7月30日～ 9月7日	機構の会員を対象としたアンケートを実施した。 ・有効回答数676名 （うち大学、短大、専修学校等へ進学して就職した者519名）

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
平成30年度活動計画	**平成30年度活動状況・成果・課題**
ふるさと発見！ 大交流会 in Iwate2018の開催	12月15日にいわて産業文化センターを会場に開催し、205の出展団体と1,700名の来場者が交流した。その結果、来場者の満足度は97.6%、出展者の満足度は75%であった。しかし、高校生の参加がほとんど無く、今後の課題
地域志向型インターンシップの企画等	県内における地域志向型インターンシップは、岩泉町、葛巻町、二戸地域などで実施されているほか、一関では農業に特化したインターンシップを、北上では商店街の活性化に向けたインターンシップを実施するなど、地域の実情に合った多様なインターンシップの展開が図られた。 年度末には首都圏協力大学を訪問して、このような取組を説明した。
会員向けアンケートの実施	県外の高等教育機関を卒業した人材を県内企業への就職につなげるため、会員企業を対象としたU･Iターンの理由や背景を探る調査を実施した。

３．今後の活動方針・予定

(1) ふるさと発見！大交流会in Iwate2019の開催
　令和元年11月23日にいわて産業文化センターで実施予定

(2) 地域志向型インターンシップの推進
　県内高等教育機関に加えて、COC＋の首都圏協力大学の学生にも周知し、岩手の中山間地域や農業など多様なインターンシップを自治体や地域企業等と連携して推進

いわてで働き、輝くために－いわての魅力再発見！－

ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2018

＊開催日時：平成30年12月15日（土）13時～１６時
＊開催会場：岩手産業文化センター（アピオ）

【概要】

1. 学生と事業所とのマッチングイベント

- 出展団体：205ブース
- 参加者数：1,700名（学生910名、出展者610名、一般60名、関係者120名）
- 費用：656万円（民間企業出展者からの出展料156万円（1万円／ブース）と補助金（500万円）を充当）




2. 主役は若者

- 学生が実行委員会を組織して企画
- 普段着での交流
- インターンシップ受け入れ事業所（46事業所）を学生が取材し、出展企業紹介冊子にコメント



3. 教育の場としても活用

- キャリア教育などの授業に活用

4. ５つの多彩なフォーラムを併催

① 市職員のシゴトっていろいろある～約10年の経験から伝えられること～（主催：岩手大学三陸復興・地域創生推進機構）
② 聴いて視て体験！知っ得介護～介護職員のリアルトークとVRによる職場見学（主催：厚生労働省岩手労働局）
③ インターンシップフォーラム「インターンシップで見つけよう！」（主催：ふるさといわて創造協議会）
④ 現役ゲームクリエーターが語る、北東北と最新デジタルエンタメ技術（主催：岩手県商工労働観光部商工企画室）
⑤ いわて就職面接会Ⅳ（主催：公益財団法人ふるさといわて定住財団）



来場者及び出展者の評価

来場者（有効回答数552（学生536、一般16））の満足度は97.6%

- 今まで知らなかった岩手の魅力を発見できた　98.3%
- 自分の将来についてのイメージが湧いた　81.2%

出展者（有効回答数122）の満足度は75%

- 来年度も出展したい　77%
- 出展費用1万円は安い（11.5%）、適当な価格（69.7%）

多様なインターンシップの展開

- よってたかって学生を育てる、岩手ならではのインターンシップ
- 1,2年生のうちから参加できる、地域と企業が一体となったインターンシップ

事業所主導型

事業所の通常業務を体験させる基本的なインターンシップ

1週間程ひとつの企業に行って行うことが多い

実践型（課題解決型）

企業の抱える課題を学生が主体になって解決するインターンシップ

夏休みや春休みに1ヶ月程ひとつの企業に行って行うことが多い

地域志向型

・地域の抱える課題を地域に入って考える
・働くこと以上にそこで暮らすことを体験する
・地域全体で受け入れるインターンシップ
・地域のファンを増やす

平成28年　岩泉町
平成29年　岩泉町、葛巻町、西和賀町*、二戸地域など
*学生団体Orahoが町や地域企業を巻き込んで実施

☆地域企業を取りまとめ、学生を受け入れるコーディネーターの存在が鍵

地域志向型インターンシップ（岩泉町）

- コーディネーター（岩泉町まるごとコネクター）が企画して町全体で学生を受け入れ、毎夜の意見交換会や報告会を実施

林業の川上から川下までを学ぶ
林業コースインターンシップ





岩泉の観光と産業を学ぶ
観光・産業コースインターンシップ





ガイダンスや報告会はたくさんの関係者が集結
岩泉の休日も満喫できるインターンシップ





学生の感想



私が体験したインターンシップは
「働くこと」だけではなくその土地で生きること」について学べるインターンシップです

様 式 1

いわて未来づくり機構 イノベーション推進作業部会の
実績報告・活動計画

テーマ：岩手型イノベーションの推進について

座長：古舘　慶之　　　　担当団体：科学・情報政策室

報告要旨

本県の各機関の持つポテンシャルを生かしてイノベーションの創出に向けた取組を強化するため、平成29年度から本作業部会を設置し、検討を開始。

平成30年度は、いわて県民計画（2019～2028）と整合を図りながら新しいイノベーション創出に向け、「岩手県科学技術イノベーション指針」を取りまとめた。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

平成30年５月22日	第１回作業部会開催 ・指針の骨子についての検討
平成30年９月28日	第２回作業部会開催 ・指針の構成案についての検討
平成30年11月20日	第３回作業部会開催 ・指針の素案についての検討
平成31年１月９日	第４回作業部会開催 ・指針の最終案についての検討

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成30年度活動計画	平成30年度活動状況・成果・課題
平成29年度の調査分析結果を踏まえ、次期総合計画と整合を図りながら、イノベーション創出のための方向性を取りまとめる。	本作業部会の検討結果や、いわて県民計画（2019～2028）と整合を図りながら「岩手県科学技術イノベーション指針」を取りまとめた。

３．今後の活動方針・予定

Society5.0の目指す超スマート社会を見据え、岩手県科学技術イノベーション指針に基づき、科学技術の経済面への展開に加え、生活環境などの文化生活面への社会実装に向けた取組を積極的に推進していく。

岩手県科学技術イノベーション指針の構成

Ⅰ　科学技術を巡る状況

【国の動向】

・第５期科学技術基本計画、未来投資戦略 2018 等により **Society5.0 の実現**に向けた取組を推進。**経済発展と社会的課題の解決**を目指す

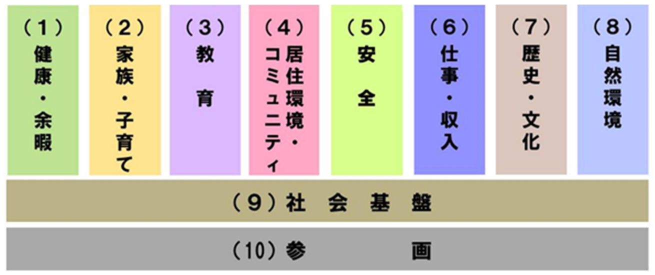
・2015 年９月の国連サミットで「持続可能な開発目標（SDGs）」採択、日本でも積極的に取組を推進



【県の動向】

・**新たな総合計画**を策定、**物質的な豊かさに加え、心の豊かさや地域の人のつながりなども大切にし、一人ひとりの幸福度を高める社会づくり**を進める。

・**科学の振興は社会経済活動や教育・研究の土台であり、８つの政策分野を支える基盤。**



・経済状況は、県内総生産、製造品出荷額とも増加から横ばい傾向
・研究開発状況については、研究開発型企業数は全国と比べ少ない
・ＩＬＣ実現に向けた受入れ体制の整備が進む

Ⅱ　これまでの成果と課題

【成果】

・持続的なイノベーションの創出に向けて産学官が連携し共同研究を推進するなかで、分子接合技術をはじめ**オリジナリティの高い研究成果の実用化が進む**

・**積極的に事業展開を行う研究開発型のベンチャー企業**の動きが見られ、今後、ライフサイエンス分野で新たな産業集積が期待される

【課題】

・研究開発型企業や販売力の強い企業が全国に比べ少なく、新たな付加価値を創出する基盤を強化していくことが引き続き必要

・今後、イノベーションは、かつての産業、経済の視点だけではなく、生活全般をカバーしており、**社会のニーズに広く適用していく視点**も求められる

Ⅲ　基本目標

【いわて県民計画（2019～2028）における基本目標】

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

【科学技術の基本目標】

「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現に向け、岩手の人、岩手の大地がイノベーションの源泉となり、社会の新たな価値を生み出し、それを社会に還元していきます

Ⅳ　目標実現に向けた戦略

Society 5.0 の目指す超スマート社会を支える技術をあらゆる場面で活用していきながら、イノベーションを展開

【イノベーション戦略】

戦略Ⅰ　人材育成・定着
・次代の研究開発を担う人材の育成
・科学技術に係る普及啓発
・科学技術を担う人材の定着　等

戦略Ⅱ　イノベーション環境強化
・知財の創造・保護・活用支援体制の強化
・オープンイノベーションの仕組構築
・Society5.0 の実現に向けた体制構築　等

戦略Ⅲ　資金支援
・研究ステージに応じた資金支援
・競争的外部資金の獲得支援
・ファンド等による資金支援　等

戦略Ⅳ　産学官金連携
・産学官金コーディネート活動の推進
・異分野連携の推進
・県内外のネットワークとの連携推進　等

【数値目標】

・研究開発型企業数：累計 400 社(2019 年度から)
・競争的外部資金獲得金額：毎年 17 億円
・産学官金共同研究数：310 件(2028 年度)
・特許等出願件数：500 件(2028 年度)
・競争的外部資金獲得件数：毎年 64 件

【科学技術の展開が期待される分野】

経済面 Ⅵ
・次世代ものづくり
・加速器関連
・農林水産業高度化
・ライフサイエンス
・環境・エネルギー
・伝統産業高度化

文化生活面
・文化スポーツ Ⅰ Ⅶ
・教育 Ⅲ
・自然環境 Ⅷ
・生活環境 Ⅱ Ⅳ
・安全 Ⅴ

※　白抜きの数字は、いわて県民計画（2019～2028）の政策分野との対応を示す。
Ⅰ 健康・余暇、Ⅱ 家族・子育て、Ⅲ 教育、Ⅳ 居住環境・コミュニティ、Ⅴ 安全、Ⅵ 仕事・収入、Ⅶ 歴史・文化、Ⅷ 自然環境

様 式 1

いわて未来づくり機構 新しい三陸創造作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：大規模イベントを契機とした三陸地域の持続的な振興

座長：高橋　則仁　　　　　担当団体：岩手県

報告要旨

　三陸防災復興プロジェクト2019及びラグビーワールドカップ2019™釜石開催並びに東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、三陸地域の多様な魅力を国内外に発信するとともに、東日本大震災津波からの復興に取り組む地域の姿や、支援に対する感謝の気持ちを伝え、多様な交流を活発化させるチャンスである。

　このことから、これら大規模イベントの成功に向けた取組等を推進し、開催後もその成果を三陸地域の振興等につなげる。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）	
平成30年９月26日	新しい三陸創造作業部会開催 ・各イベント等の進捗状況 ・各主体に期待する役割 ・各イベント等を生かした三陸の地域振興

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
平成30年度活動計画	**平成30年度活動状況・成果・課題**
(１)三陸防災復興プロジェクト2019の成功に向けた取組（三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会の取組）	○県内向けプレイベントの開催 　三陸防災復興プロジェクト2019プレイベントを開催（8/18）し、知事と高校生による「プロジェクト実施宣言」等を発信 ○県外向けプレイベントの開催 　ツーリズムEXPOジャパン2018に出展（9/20-23）し、三陸防災復興プロジェクト2019の概要や三陸地域の魅力について紹介 ○運営計画の決定 　三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会（会長：知事）において決定 ○広報の展開 　専用ホームページ、SNS、チラシによる情報発信等
(２)ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向けた取組（ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会の取組）	○大会機運の醸成 　１年前イベント等の開催、県内外イベントのPRブースの出展、特設HP等による情報発信　等 ○観光客の受入態勢の構築 　大会公式ボランティアの募集、大型都市装飾の実施、外国人おもてなし研修の実施　等 ○観客等の円滑な輸送の確保 　交通輸送実施計画の作成、パーク＆ライド駐車場やバス乗降場等の確保　等 ○警備・防災・医療救護などの安全安心の確保 　警備計画の作成、避難路、避難方法の検討　等

（３）東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成等の取組	○ホストタウン登録、交流事業の取組支援 　復興「ありがとう」ホストタウンの登録（沿岸では７市町村）や、ホストタウンが実施する各種事業の取組支援 ○オリンピックデー・フェスタの実施※JOCと連携 　スポーツプログラムの体験を通じて、県民とオリンピアンがふれあう機会を提供 ○未来への道1,000キロ横断マラソンの実施※東京都と連携 　東日本大震災津波の被災地をランニングと自転車でつなぐリレーを開催

３．今後の活動方針・予定

（1）活動方針

様々な主体の参画・連携の下、開催機運の醸成及び周知活動を展開し、各イベントの成功に向けて取り組む。また、各イベントの成果を踏まえ、持続的な三陸地域の振興の推進に向けて検討していく。

（2）　活動予定

ア　三陸防災復興プロジェクト2019の成功に向けた取組（実行委員会の取組）
〔期間：６月１日～８月７日、会場：三陸沿岸〕

○　情報発信の取組
　TV、ラジオ、新聞、雑誌、交通広告、SNS、動画などあらゆるツールを活用して情報発信を図るとともに、企業等の支援による情報発信を展開

○　６月１日のオープニングイベントを約700人の来場のもと、釜石市で開催。今後、プロジェクト計画事業を順次実施

イ　ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向けた取組（実行委員会の取組）
〔期日：９月25日、10月13日、会場：釜石鵜住居復興スタジアム〕

○　大会本番における賑わいの創出
・大会情報や関連イベント情報、観光情報などを特設HPで発信
・開催100日前(6/16)・50日前(８月上旬)、日本代表戦に合わせたｲﾍﾞﾝﾄを実施(7/27)

○　観客等の受入態勢の構築
・ファンゾーン（釜石市民ホール）における県内各地の特産品等の提供、全試合パブリックビューイングの実施、復興情報の発信（9月20日から10月13日までの毎日、10/19以降の土日など計30日間）
・県内市町村と連携した地元の既存イベント等におけるパブリックビューイング（ラグビーの試合放映）の実施

○　観客等の円滑な輸送の確保及び警備・防災・医療救護など安全安心の確保

ウ　東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成等の取組

○　ホストタウン登録、事前キャンプ誘致、交流事業の取組支援
　市町村の大使館訪問、交流計画作成等及びホストタウンとの交流事業の取組を支援

○　オリンピック聖火リレー、パラリンピック聖火フェスティバルの実施に向けた準備

○　旧国立競技場炬火台の常設・巡回展示
　県営運動公園陸上競技場での常設展示及び「三陸防災復興プロジェクト2019」における巡回展示を実施

○　「復興の火」展示
　復興オリンピック・パラリンピックの観点から、聖火リレーの開催に先立ちギリシャで採火した火を「三陸鉄道」、「ＳＬ銀河」、大船渡市のイベントで展示

○ オリンピックデー・フェスタの実施　※ＪＯＣと連携

○ 未来への道1,000キロ縦断マラソンの実施　※東京都と連携

三陸防災復興プロジェクト2019について

Ⅰ　開催の趣旨

2019年は、三陸鉄道が久慈から盛までつながるほか、東日本大震災津波伝承館の開館、ラグビーワールドカップ2019TMの釜石市開催など、三陸地域が国内外から大きな注目を集めるチャンスの年です。

この2019年上期に、広域的・総合的な防災復興行事である「三陸防災復興プロジェクト2019」を開催することにより、復興に力強く取り組んでいる地域の姿を発信し、東日本大震災津波の風化を防ぐとともに、国内外からの復興への支援に対する感謝を示し、さらには、被災県として東日本大震災津波の記憶と教訓を伝え、国内外の防災力向上にも貢献すること、また、三陸地域の多様な魅力の国内外への発信と交流の活発化により、新しい三陸の創造につなげていこうとするものです。

Ⅱ　目指す姿

① 東日本大震災津波の記憶と記録の発信による震災の風化防止と、防災に対する知識と経験の共有による国内外の防災力向上への貢献。

② 三陸防災復興プロジェクト2019を機に「再び訪れたい」「再び味わいたい」三陸が形成され、交流人口の拡大と地域経済の活性化が図られる。

- 復興の取組、防災に関する知識と経験の発信
- 三陸の魅力を伝える 多彩な事業の実施

→

- ■震災の風化防止
- ■国内外の防災力向上への貢献
- ■復興の今に対する関心や支援気運の高まり
- ■「再び訪れたい」「再び味わいたい」三陸の形成

Ⅲ　事業展開の基本コンセプト

三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって 更に前に進む。

※復旧や復興の取組を通して培われてきた、人と人、地域と地域のつながりや絆を財産としながら、持続的に復興や地域課題の解決に取り組んでいくとともに、様々なつながりを更に発展させていくことを基本コンセプトとする。

目指す姿を実現するための５つのテーマ

テーマ	事業	期待される効果
防災の啓発と伝承	№2 三陸防災復興シンポジウム2019 №13 三陸防災復興展示会 №21 いわて三陸学びの旅	■東日本大震災の事実の発信による風化防止 ■復興の今に対する関心や支援機運の高まり ■支援に対する感謝の気持ちの発信 ■国内外の防災意識の向上 ■次代を担う若者への防災意識の継承
復興の現状の発信と支援への感謝	№1 三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー №3 オールいわて・祭りイベント №5 三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー №6 LINK SANRIKU 情報ステーション №10 ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」	（同上）
つながり・関係の強化	№4 さんりく音楽祭2019 №14 さんりく文化芸術祭2019 №17 さんりく絆スポーツフェスタ №18 三陸応援団 元気お届けキャラバン	■復興支援で生まれたつながりの更なる強化 ■地域コミュニティの形成支援 ■次代を担う若者の参画による地域振興の取組の継承
地域力の強化	№7 いわてHAMA-MESHIプロジェクト №9 「美味ぇがすと三陸－Gastronomy SANRIKU-構想」 №11 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ №12 三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル №20 三陸お土産品プロモーション大作戦	■三陸ならではの食や観光情報の発信を通じた認知度の向上による三陸地域への誘客の促進 ■三陸ジオパーク、三陸鉄道などの魅力を伝える新たな観光コンテンツの創出や、三陸自動車道などの新たな交通ネットワークを活用した周遊旅行商品の造成等による集客力の向上 ■三陸の食材を使用した新たなメニュー開発・提供による三陸の食の魅力向上
新たな交通ネットワークの活用	№8 三陸ステーションガーデンプロジェクト №15 三陸プレミアムランチ列車 №16 三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」 №19 “復興の今”学習列車 №22 いわて三陸ドライブツーリズム	（同上）
広報の展開	機運醸成、参加意欲の向上、誘客促進につながる情報発信 （HP、SNS、広報誌、テレビ、ラジオ、新聞、交通広告、各種イベント出展等）	■復興の現状の発信による、三陸の今に対する関心の高まり ■個別事業情報の発信と関連付けた三陸の魅力発信による、観光地としての集客力の向上
交通輸送・宿泊・警備安全対策	適切な交通アクセス・宿泊情報の提供 会期中の交通利便性を高める取組の実現 適切な警備安全対策の実施	■事業実施を契機としたおもてなし体制の充実

今後の展開方向（県次期総合計画での展開の方向性）

復興推進プランや三陸ゾーンプロジェクトなど、県の次期総合計画での政策につなげていく。

Ⅰ　復興推進プラン

（1）未来のための伝承・発信
・教訓を確実に伝承していくため、教訓を取りまとめ提言として発信
・震災学習列車等の体験学習などによる復興教育の推進

Ⅱ　三陸防災復興ゾーンプロジェクト

（1）「防災」で世界とつながる三陸
東日本大震災津波の教訓や復興の姿の発信、復興ツーリズムの推進などによる、世界の防災力向上への貢献

（2）多様な交通ネットワークで国内外とつながる三陸
三陸鉄道、復興道路やフェリー航路などの交通ネットワークを生かした国内外の誘客促進、交流の拡大

（3）ジオパークで世界とつながる三陸
世界ジオパーク認定を見据えた、ジオパーク活動の推進

（4）世界に誇れる食やスポーツでつながる三陸
・食材や食文化を活用したフードツーリズムの推進など、世界に誇れる食の町の形成に向けた取組の推進
・自然環境を活用したスポーツアクティビティの創出支援や、スポーツツーリズムの推進による交流の活性化

Ⅲ　文化・スポーツレガシープロジェクト

（1）各地における特色ある文化芸術活動の推進
特色ある文化芸術活動の促進と活発な活動が行われる環境の整備、文化芸術活動を担う人材育成

（2）各地におけるスポーツに関する特色ある活動の推進
市町村との連携による各地域の特徴を生かした特色あるスポーツ拠点形成に向けた取組の推進

4年に一度じゃない。一生に一度だ。 ONCE IN A LIFETIME

ラグビーワールドカップ2019™ 岩手・釜石開催について




令和元年 5 月 17 日(金)
岩手県文化スポーツ部
RWC2019 推進室

1 大会概要/釜石会場での試合日程等

(1) 大会概要

期間 2019 年 9 月 20 日(金)~11 月 2 日(土) [44 日間]

会場 札幌市/**岩手県・釜石市**/埼玉県・熊谷市/東京都/神奈川県・横浜市/静岡県/愛知県・豊田市/大阪府・東大阪市/神戸市/福岡県・福岡市/熊本県・熊本市/大分県 [全国 12 都市]

(2) 釜石鵜住居復興スタジアム試合日程

2019 9.25 Wednesday 岩手・釜石開催 FIJI (フィジー) v URUGUAY (ウルグアイ)

2019 10.13 Sunday 岩手・釜石開催 NAMIBIA (ナミビア) v CANADA (カナダ)






(3) 公認チームキャンプ地

盛岡市:ナミビア/北上市:ウルグアイ/釜石市:ウルグアイ、カナダ/宮古市:フィジー、ナミビア

(4) 釜石鵜住居復興スタジアム(整備主体:釜石市)

名　称 釜石鵜住居復興スタジアム(常設部分は 2018 年 7 月完成)

座席数 16,000 席(常設 6,000 席、仮設 10,000 席)

※仮設スタンド 10,000 席、仮設トイレ等は 2019 年 6 月末完成に向け整備中



(5) パシフィック・ネーションズカップ 2019 日本代表 v フィジー代表

ワールドラグビー及び日本ラグビーフットボール協会が主催するパシフィック・ネーションズカップ 2019 の試合が釜石鵜住居復興スタジアムで開催されることが決定。大会本番に向け、交通輸送や防災対策、ファンゾーン等の各種テストを実施予定。

日　時 2019 年 7 月 27 日(土) 14 時 50 分キックオフ

カード 日本代表 対 フィジー代表




2 これまでの主な取組実績

<大会機運の醸成>

(1) イベント開催(500 日前、1 年前イベント等)　(2) PRブースの出展及び情報発信
(3) 特設ホームページ「いわて・かまいしラグビー情報」開設
(4) 独自ボランティア「いわて・かまいしラグビー応援団」の募集

<観客等の受入態勢の構築>

(1) 大会公式ボランティアの募集　(2) 外国人おもてなし研修会の開催
(3) 「都市装飾計画書(案)」作成、大型都市装飾の実施　作成
(4) 「ファンゾーン運営計画書(案)」作成

<観客等の円滑な輸送の確保>

(1) 「交通輸送実施計画(案)」作成　(2) パーク&ライド駐車場やバス乗降場等の確保
(3) バス車両の確保や鉄道の増便・増結要請などの輸送力の確保

<警備・防災・医療など安全安心の確保>

(1) 「ラストマイル、観客輸送警備計画(案)」「ファンゾーン警備計画(案)」作成
(2) 関係機関と連携した避難路、避難方法の検討　(3)医療体制構築に向けた医師、看護師確保

3 大会開催に向けた主な取組

<国内外への復興の姿の発信>

(1) 試合開始前セレモニーの効果的な実施
(2) 三陸防災復興プロジェクト 2019 と連携した復興支援への感謝と復興情報の発信
(3) オリンピック・パラリンピックイベント等での復興の姿の発信

<賑わいの創出と観客等の円滑な受入>

(1) 開幕 100 日前、50 日前などの節目ごとの効果的な盛り上げイベントの実施
(2) 釜石開催の PR 及びリピーター確保につながる写真撮影スポット等などによる都市装飾の実施
(3) 大会公式ファンゾーンの開設・運営(9/20~11/2 のうち、30 日間)

<観客等の円滑な輸送と安全安心の確保>

(1) 交通渋滞回避のための、観客、地域住民等への徹底した事前周知の実施
(2) ライナーバスやシャトルバスによる確実かつ円滑な観客等の輸送の実施
(3) 警察等と連携した雑踏警備等の実施　(4) 災害時の安全かつ円滑な避難誘導の実施
(5) 医師会等と連携した観客用医療救護所の設置

<市町村等との連携による地域経済の活性化>

(1) 試合会場及びファンゾーンでの県産品等の積極的な販売
(2) 市町村におけるパブリックビューイングを核とするイベントの展開
(3) 特設ホームページや総合ガイドブック(岩手釜石版)による観光・物産情報の発信
(4) 海外メディアの事前招請などによる情報発信を通じた県内への誘客促進
(5) 県内長期滞在・周遊へ向け、いわて観光キャンペーン推進協議会と連携した大会期間中の旅行商品の造成促進

4 大会レガシーの創出

ア ラグビーワールドカップ釜石開催を記念したメモリアルイベントの開催
イ ラグビーの聖地として釜石鵜住居復興スタジアム及び周辺施設を活用したスポーツ大会や合宿の誘致
ウ 釜石開催出場国やニュージーランドとのラグビーを主軸とした国際交流の加速化
エ ボランティアなど大会参画を通じて得られたノウハウ等の活用を誘導
オ 大会を契機とした観光インフラ整備による観光振興など地域活性化の展開


【ニュージーランド高校生との交流(2018 年度実施)】


【独自ボランティアの活動の様子】





【外国人おもてなしに係る取組】

5 今後の主な予定

2019.5.18~	第三次一般先着販売
2019.7.27	**16,000 席でのテストイベント(PNC2019 日本代表 対 フィジー代表)**
2019.8 月~	最終一般先着販売、開幕 50 日前イベント
2019.8 月~	シティドレッシング(都市装飾)の開始
2019.9.25	**フィジー 対 ウルグアイ**
2019.10.13	**ナミビア 対 カナダ** ※大会期間中のうち 30 日間ファンゾーン設置



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組状況について

1　「聖火リレー」及び「復興の火」について

（１）　東京2020オリンピック聖火リレーについて（2020年６月17日～19日）

ア　これまでの取組状況
「東京2020オリンピック聖火リレー岩手県準備委員会」設置（平成30年９月）
・リレールート案の検討
・ランナー募集の準備
・各種警備計画の検討　等

イ　リレールート選定に当たっての考え方
「復興の今と未来への決意をオール岩手で発信」

ウ　今後の取組
・　警備計画を含めた詳細ルート案の作成・提出（５月）
・　聖火ランナー募集・選出計画の作成・提出　（〃）

エ　課題
リレー実施に係る財源の確保（沿道及びセレモニー会場の警備費用等）

（２）　東京2020パラリンピック聖火リレー（聖火フェスティバル）について

市町村と連携し、幅広く実施する方向で検討中

（３）「復興の火」について（2020年３月22日～23日）

ア　実施内容
３月22日（日）「三陸鉄道」や「ＳＬ銀河」を活用した展示イベントの実施
３月23日（月）大船渡市「キャッセン大船渡エリア」での展示イベントの実施

イ　今後の取組
市町村、三陸鉄道㈱及びＪＲ東日本㈱等の関係機関と具体的な調整を図っていく

2　ホストタウンをはじめとする機運醸成等の進捗について

（１）　ホストタウンについて

ア　現在の登録状況
「ホストタウン」３市１町（盛岡市、遠野市、八幡平市、紫波町）
「復興『ありがとう』ホストタウン」６市２町１村
（大船渡市、花巻市、陸前高田市、釜石市、久慈市、野田村、宮古市、雫石町、山田町）
「共生社会ホストタウン」１市（遠野市）
➡現在、計13市町村が登録（ホストタウンと共生社会ホストタウンで重複）
※事前キャンプは４市が決定

イ　主なホストタウン事業
【盛岡市】　水球カナダ代表と日本代表との男女合同合宿（H30.６～８）
【釜石市】　オーストラリア小学生と地元小学生とのラグビー交流事業（H30.９）
【雫石町】　ドイツのパラリンピック金メダリスト講演会（H30.10）
【花巻市】　髙橋英輝選手（リオオリンピック陸上競技競歩出場）講演会（H30.12）
【雫石町】　ドイツ料理教室（H31.1）
【野田村】　台湾訪問（友好演奏会で来村した楽団との交流等）（H31.1）
【大船渡市】印西市と共同のアメリカ陸上代表チームによる陸上クリニック（H31.2）
【山田町】　山田町産食材を活用したオランダ料理教室（H31.2）

（２）　機運醸成イベント等の平成30年度実績

ア　東京2020大会２年前イベント「いわてSPORTS POWER プロジェクト2018」
「復興五輪」を理念に掲げる東京2020大会の県内機運醸成のため、組織委員会との共催により、２年前イベントを開催
・　期日：平成30年10月８日
・　会場：岩手県営運動公園
・　来場者数：約２万人（同日同会場で併催の「2108スポーツフェスティバル」を含む来場者数）
・　主な内容：アスリートトークショー、東京五輪音頭-2020-披露
東京2020大会マスコット「ミライトワ＆ソメイティ」によるステージほか

イ　未来への道1000㎞縦断リレー：平成30年７～８月沿岸市町村を縦断　※東京都と連携
ウ　オリンピックデー・フェスタ　：平成30年７~11月県内５市町村で実施　※ＪＯＣと連携
エ　いわてスポーツフェスティバル：オリパラ等経済界協議会と連携して、ホストタウン市町村参加のホストタウンＰＲイベントの実施（平成31年３月16日～17日）

（３）　今後の取組

ア　東京2020大会１年前イベントの実施（2019年７月27日~７月28日）
イ　旧国立競技場炬火台の岩手県到着セレモニー及び常設・巡回展示
・期間：2019年５月15日~７月16日
・内容：岩手県営運動公園陸上競技場で行われる岩手県高等学校総合体育大会開会式と併せて岩手県到着セレモニーを行うほか、「三陸防災復興プロジェクト2019」、「JOCオリンピックデー・フェスタ」において展示を計画。
ウ　未来への道1000㎞縦断リレー：平成31年７～８月沿岸市町村を縦断　※東京都と連携
エ　オリンピックデー・フェスタ　：平成31年７~８月県内５市町村で実施　※ＪＯＣと連携

3　その他の取組について

（１）　東京2020大会における食材等の提供に向けた取組について

ア　官民一体となった推進体制の構築
・　「いわて東京オリ・パラ等県産農林水産物利活用促進協議会」を設立（H30.2）
⇒　ＧＡＰや食材利活用などの５つのプロジェクトに、新たに花き部門を加え（H31.3）、官民一体となった取組を展開

イ　ＧＡＰの取組推進
・　岩手県版ＧＡＰの創設（H29.9）や、ＧＡＰ指導体制の強化により、生産者のＧＡＰの取組を推進
⇒　県ブランド米「金色の風」「銀河のしずく」の産地や畜産分野でＧＡＰの取組が活発化

ウ　農林水産物の魅力発信
・　ＩＯＣ公式夕食会（H29.12）や政府合同庁舎８号館食堂（H30.9）で被災３県の食材を活用した料理の提供
・　東京2020大会へ提供可能な食材を県ＨＰで紹介
➡東京2020大会を契機とし、食を起点とした地域経済活性化を図る

（２）　地域の魅力発信

ア　「三陸防災復興プロジェクト2019」（会期：2019年６月１日～８月７日）
・　岩手県の三陸地域全体を舞台とし、防災復興に関するシンポジウムや、お祭り・音楽・食・観光などの多彩な事業を行い、復興に力強く取組む地域の姿やご支援への感謝をお伝えするとともに、東日本大震災津波の教訓や三陸の多様な魅力を国内外に発信

イ　東北復興プログラムへの参画（組織委員会主催「東京2020Nippon フェスティバル」）
・　東京2020大会の公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に発信

様 式 1

いわて未来づくり機構子育て支援作業部会の実績報告・活動計画

テーマ： 母と子だけではなく家族全体を支える岩手版ネウボラの開発

座長：庄司知恵子　　　担当団体：岩手県立大学

報告要旨

平成30年度は、県立大学男女共同参画推進センターの協力を得ながら、育児と仕事の両立において、当事者が抱えている課題の検討を行った。そこで共有された内容をもとに、シンポジウム「育児と仕事の両立はいかに！！納得できる毎日のために―やっぱり難しい？制度利用の本音のところ―」を実施（12月7日）し、好評を得た。アンケート結果より、企業における子育て支援の雰囲気づくりの重要性が見えてきたことから、令和元年度は、企業の子育て支援整備状況の確認、および企業に対する子育て支援環境整備の重要性の提示に焦点をあてた活動に取り組むこととした。

１．平成30年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）	
平成30年7月29日	第一回作業部会開催：活動指針の確認、平成30年度活動内容の共有
平成30年9月11日	県大男女共同参画推進センターランチミーティング：子育てと仕事の両立において当事者が抱える課題についての検討
平成30年9月18日	シンポジウム検討会：シンポジウムの内容について検討
平成30年9月21日	県大育休中教職員座談会：子育てと仕事の両立において抱える課題についての検討、シンポジウムの内容について相談
平成30年11月1日	ファミリーサポートセンター検討会：現状と課題について検討
平成30年12月7日	シンポジウム：「育児と仕事の両立はいかに！！納得できる毎日のために―やっぱり難しい？制度利用の本音のところ―」
平成31年1月25日	第二回作業部会：平成30年度の振返り、平成31年度活動予定の確認
平成31年2月12日	インターンシップ検討会：「子育て支援環境が整った企業に特化したインターンシップ」についての提案
平成31年2月18日	ファミリーサポートセンター検討会：学内実施についての検討

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成30年度活動計画	平成30年度活動状況・成果・課題
① 子育て支援ニーズの把握	① 県立大学男女共同参画推進センターのミーティングの場で、子育てと仕事の両立において当事者が抱える課題について意見交換を行い、②のシンポジウムの内容検討に生かした。ファミサポセンターの機能強化の重要性も見えてきたが、そのシステム作りにおいては課題が多々あり、今年度も検討を続ける。
② 県全体での課題共有	② 「育児と仕事の両立はいかに！！納得できる毎日のために―やっぱり難しい？制度利用の本音のところ―」と題したシンポジウムを開催し、好評を得た。アンケート結果より、企業における子育て支援の雰囲気づくりの重要性を確認できた。

２．平成30年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
平成30年度活動計画	**平成30年度活動状況・成果・課題**
③ 育児休暇中の職場との関係について検討	③ 岩手県立大学男女共同参画推進センターのミーティングの場やシンポジウムを通して、子育てと仕事の両立において抱える課題について検討した。
④ 次世代育成	④ 学生にシンポジウムへの参加を促したが、参加者は少なかった。①を通して見えてきた課題から、次世代育成の観点に立ち、学生にファミリーサポートセンターの提供会員としての研修の場に参加をしてもらい、子育てと仕事の両立について考えてもらった。 ※ シンポジウムのパネリストとなっていただいたことをきっかけに、ベアレン醸造所様が「イクボス宣言」を行った。また、いきいき岩手支援財団様が、機構の会員として申請をし、登録された。

３．今後の活動方針・予定

① 企業における子育て支援の雰囲気づくり
② 企業における子育て支援の重要性についての理解・提示、次世代育成
　インターンシップin東北における「子育て支援環境が整った企業に特化したインターンシップ」の実施
　シンポジウムの開催（１月を予定）
③ 企業における子育て支援整備状況についての調査・分析
　イクボス宣言・いわて子育てに優しい企業等認証・くるみん企業を対象とした調査

子育て支援作業部会 平成30年度作業の振り返りと 平成31年度作業の検討

平成30年度作業
振り返り
シンポジウムや座談会を通して

- 企業における子育て支援状況の確認の必要性
- 企業に対する必要な支援の検討
- 岩手県における「企業における子育て支援整備」を重要とする風土作りの必要性

いきいき岩手支援財団の会員加入

ベアレン醸造所のイクボス宣言

→

平成31年度作業
検討

企業における子育て支援環境整備

- 企業における子育て支援整備状況についての調査・分析 ― 企業を対象とした調査
- 企業における子育て支援の重要性についての理解・提示 ― インターンシップの提供／支援
- 企業における子育て支援の「雰囲気」づくり ― シンポジウムの開催

作業１「子育て支援環境が整った企業に特化したインターンシップ」

子育て環境の良さ→岩手県への就職
『いわて未来づくり機構 岩手県への就職・進学に 関するアンケート報告書 』
（平成３１年２月 ふるさといわて創造作業部会）

↓

社会に出る前に学生に子育てと仕事の両立について考えてもらう

企業にとって子育て支援環境を整備することの大切さを理解してもらう



くるみん・いわて子育てにやさしい企業等認証取得他、子育て支援の雰囲気づくりを頑張っている企業

株式会社　リコージャパン
株式会社　水清建設
株式会社　タカヤ

作業２「企業における子育て支援環境整備状況についての調査（仮）」

子育て環境の良さ→岩手県への就職
『いわて未来づくり機構 岩手県への就職・進学に 関するアンケート報告書 』
（平成３１年２月 ふるさといわて創造作業部会）

企業における「子育て環境状況」についての相対化
（平成３１年５月　企業への聞き取りより）

イクボス宣言企業
（87社:令和元年5月15日現在）

いわて子育てにやさしい企業等認証取得
（117社:令和元年5月9日現在）

くるみん・プラチナくるみん
（29社:平成31年3月現在）

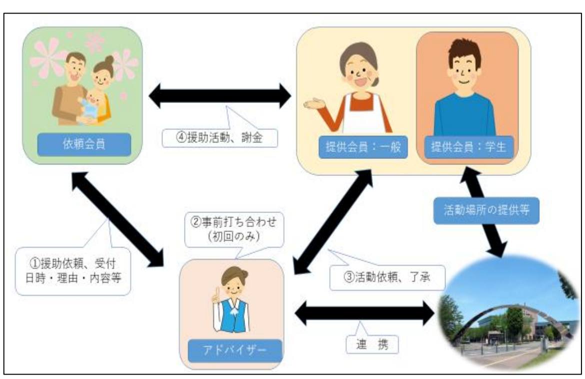
第一段階：アンケート調査
・子育て支援環境
（法定＋α）
・認証・宣言の経緯
（メリット・デメリット）
等々

→

第二段階：聞き取り調査
・面白い取り組みをしている企業を対象に
・雰囲気づくりの重要性
・企業戦略における位置づけ
等々

→

作業３　県大の作業として検討しているもの



「ファミリーサポートセンター機能の
強化と次世代育成・キャリア教育」（案）

男女共同参画推進センター研修会
「男性の育児休業」についてのﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
（7月実施予定）

パネリスト（予定）
　民間企業／県職員／大学教員
コメンテーター
　堀江　淳事務局長
コーディネーター
　社会福祉学部　菅野　道生准教授

インターンシップin東北 特別プログラム

子育て支援環境が整った企業に特化インターンシップ

みなさんは将来結婚して子供を授かって、
子育てをしながら仕事をする（かも）！
「家族を持ちながら働くこと」ってとても大変なのです。
まだイメージがわかないかもしれません。
でも10年後？20年後　には多くの人にそういう
人生の転機が訪れます。

岩手には家族を持ちながら働く事を支援している
優良企業があります。
つまり、職場環境が良く、福利厚生がしっかりしていて
長く働ける企業です。
そんな企業をピックアップしたインターンシップです。

どんなインターンシップ？？？

通常の職場体験に加えて…

①子育てや女性活躍支援に関する取り組み、制度、働きやすさの紹介（座学）

②実際に子育てをしている社員や若手社員と、仕事や生活を含めた座談会　等

が半日程度盛り込まれており、「仕事」に加えて、「生活」や「人生」についても考えることが出来るプログラムです。

実施予定の企業は3社！

株式会社タカヤ　（建設・建築）



いわて子育てにやさしい企業等認証取得
いわて女性活躍企業等認定取得
いわて働き方改革推進運動参加宣言企業
いわて働き方改革AWARD２０１８エントリー

【取組状況】
産休前の激励会、育休復帰率は100%、時短勤務あり、出産祝金制度、子育て夫婦社員も多い、復職後の不安解消を目的とした育休前の復帰面談、会社全体の会議（年二回）に子供同行、子育てしやすい雰囲気作りの重視　等

株式会社水清建設（建設）

厚生労働省　くるみん　認証取得
いわて働き方改革推進運動参加宣言企業
いわて働き方改革AWARD授賞

【取組状況】
産休からの復帰率は 100%、小学校入学までの短時間勤務、30 分単位の年次取得、子の 看護休暇（5日間）、年次とは別のワークバランス休暇、忘年会や取引企業との感謝会に子供同行等、子育てしやすい雰囲気作りに取り組んでいる。

リコージャパン株式会社　岩手支社（プリンタ製造・販売）



厚生労働省　くるみん　認証取得
厚生労働省　えるぼし　認定取得
いわて働き方改革推進運動参加宣言企業
いわて働き方改革AWARD授賞

【取組状況】
女子会の活動（地域、社会貢献活動）、ES 向上委員会で有給取得率55%を目指す 取り組み、ファミリーデー有、残業は年間平均 5h、時間単位年次取得、育休中に復帰後のための定 期的な業務情報共有、子育て夫婦社員あり 等。

参加申込はもちろん「インターンシップin東北」から！

いわて未来づくり機構 令和元年度総会第２部 講演資料

講演：脱優等生が創るニッポンの未来

講師：慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長　冨田（とみた） 勝（まさる） 氏

□　主な御経歴

1957 年　東京都生まれ
1981 年　慶應義塾大学工学部数理工学科卒業
1985 年　カーネギーメロン大学コンピューター科学部
　　　　大学院博士課程修了 同大学助手、助教授、
　　　　同大学自動翻訳研究所副所長、准教授
1990 年　慶應義塾大学環境情報学部助教授
1997 年　慶應義塾大学環境情報学部教授
2001 年　慶應義塾大学先端生命科学研究所所長（～現在）
2005 年　慶應義塾大学環境情報学部学部長（～2007 年）

□　専門分野

先端生命科学、システム生物学、バイオテクノロジー、生命情報科学等

□　主な活動

- 鶴岡サイエンスパーク（山形県鶴岡市）内の慶應義塾大学先端生命科学研究所所長として、山形県や鶴岡市と連携し、地域産業の高度化や地域活性化に尽力。
- 大学発ベンチャーを次々に創出し、2003 年に創業したヒューマン・メタボロームテクノロジーズ株式会社（ＨＭＴ）は、2013 年の東証マザーズに株式上場を果たし鶴岡市内で唯一の上場企業となっている。
- この他に、Spiber 社（人工クモ糸）、サリバテック社（唾液で癌診断）、MetaGen 社（便で健康診断）など独創的なベンチャー企業の設立にも関わられた。
- 地元高校生が同研究所で研究に携わる「高校生研究助手プログラム」等を実施するなど人材育成にも貢献。

□　主な受賞歴

米国 National Science Foundation 大統領奨励賞(1988)
日本ＩＢＭ科学賞(2002)
科学技術政策担当大臣賞(2004)
文部科学大臣表彰科学技術賞(2007)
International Society of Metabolomics 功労賞(2009)
福澤賞(2009)
大学発ベンチャー表彰特別賞(2014)
Thomson Reuters Highly Cited Researcher(2015)
Audi Innovation Award(2016)
International Society of Metabolomics Lifetime Honorary Fellow
(終身名誉フェロー)(2017)
山形県特別功労賞(2017)
第 68 回河北文化賞(2019)　　など を受賞。